

電報閱覽ヲ請求スル者ハ一通ニ付金三錢ヲ納ムヘシ又電報ノ正寫ヲ請求スル者ハ和文二百字以内毎ニ金五錢歐文五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ

一返信封前納證書ノ使用期間

證書發行ノ日ヨリ六十日以内ナリシヲ三十日以内ニ改正セラル

一照校電報料

通常電報料ノ半額ナリシヲ四分ノ一ニ低減セラル

一郵便受信報知

電報ノ受信人ニ到達セシ日時ノ報知ハ從來電報ヲ以テスルユトニ限ラレタルカ今回ハ郵便ニテモ其ノ報知ヲ受クルユトヲ得但シ郵便報知料トシテ電話一通ニ付金三錢ヲ納ムヘシ

一追尾電報及再送電報ノ市内追送料

一市内ニ追送スル電報ハ其追送ノ料金を要セカリシカ今回改正ノ結果其ノ特例ヲ廢セラレタルハ電報ノ追送ヲ受ケタル者ハ市内ト市外トヲ問ハス總テ追尾一回毎ニ新ニ差出シタル電報ト同様ノ料金を納ムヘシ

一同文電報ノ通數ニ制限ヲ設ク

同文電報ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

一外國郵送電報

本邦内ノ局所ヨリ外國へ郵便ヲ以テ送達スル電報ヲ内國電報トシテ取扱フノ便法ヲ設ケラレタリ此ノ電報ヲ差出ス者ハ郵送料トシテ一通ニ付金二十錢ヲ納ムヘシ但シ在清國及在韓國本邦郵便局所在地ニ宛テタルモノ、外歐文電報ニアラサルハ其ノ取扱ヲナカス

○郵便差出方ニ付注意ノ件

明治三十三年十二月遞信省告示第五百卅九號

郵便物差出方ニ付特ニ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一恭賀新年其他之ニ類スル賀詞ヲ印刷シアル定期刊行物又ハ其他ノ印刷物ニ發行者ニアラサル者ニ於テ其姓名家號等ヲ印刷又ハ記入シ之ヲ郵便ニ差出シタルトキハ第一種郵便物トシテ取扱ヘシ其新ニ賀詞等ヲ印刷記入シタルモノモ亦同様ニ取扱フヘシ

一第三種郵便物ノ號外トシテ發行シタル印刷物ニシテ緊急時事ヲ報道スルモノニア

○郵便物差出方ニ付注意ノ件

ヲサルモノ若クハ號外臨時増刊等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ本紙ト其記載事項ノ性質ヲ異ニスル印刷物ハ第四種郵便物トシテ取扱フヘシ

一 已ニ認可ヲ受ケ現ニ其效力ヲ存續スル第三種郵便物ニシテ其紙面ノ體裁又ハ記載事項ヲ變更シ再ヒ刊行シタルモノハ前二項ノ例ニ依リ取扱フヘシ

○郵便電信發受心得

明治三十一年三月遞信省告示第三十七號

郵便電信發受ニ付テハ發信者受信者ノ注意ハ頗ル交通ノ敏活ヲ助クル所アルヘキヲ以テ成ルヘク左記心得書ノ趣旨ヲ守ルヘシ

追テ此心得ハ新聞雜誌其他公衆ノ用ニ供スル印刷物類ニ廣ク且屢々轉載シ或ハ學校ニテ適宜取扱シテ學生生徒ニ教示スル等成ルヘク公衆ノ周知ヲ謀リ以テ公益ヲ助ケンコトヲ期望ス

郵便ノ部

一 郵便物ノ肩書ハ國郡市町村番地ヲ記スヘシ府縣名ハ一國ニシテ數府縣ニ分屬スル地方ノ外記載スルニ及ハス

郵便局ニテハ概シテ國名ニ依リ差立方面ヲ定ムルニ付キ同一府縣内ト雖モ國チ異ニスルトキハ差立ノ方面亦異ナルモノアリ故ニ府縣名ハ必要ナシ尤モ一國ニシテ二三ノ府縣ニ跨ル地方例ヘハ武藏丹波肥前ノ如キニ於テハ府縣名ヲ記載スル方速達ノ便アレハ此等ノ場合ニハ成ルヘク府縣名ヲ記載スヘシ

三府五港其他市制施行地ノ如キハ國名ヲモ要セス例ヘハ東京大阪橫濱名古屋廣島ノ如キハ單ニ何々市ト冠スヘシ

二 郵便物ノ表書ハ國郡市町村等ノ肩書ヲ成ルヘク大キク鮮明ニ記載スヘシ番地氏名ハ小サク書シテ差支ナシ

郵便物ハ送達途中數多ノ郵便局ヲ經由スルモノニシテ各局トモ肩書ニ依リ順次差立ノ方面ヲ定ムルヲ以テ肩書ノ不分明ナルモノハ取扱者ノ手數ヲ増シ一般ニ遲延ノ原因トナルヘシ字體ハ成ルヘク楷書又ハ丁寧ナル行書ヲ用フヘシ草書ノ如キハ錯誤ヲ生シ易シ

三 差立人受取人トモ雅號變名等ヲ用フヘカラス

四 配達又ハ還付ノ際差支アリ沒書トスルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ
郵便物ノ羅馬字ノ表書ニハ成ルヘク日本字ヲモ併書スヘシ

○郵便電信發受心得

羅馬字表書ノ郵便物ヲ内國ニテ配達スルニハ郵便局ニテ日本字ニ翻譯シテ配達スルノ煩アリ隨テ内國ニテ配達スルモノハ成ルルニテ宿所氏名ヲ日本字ニテ行書スルヲ可トス外國行ニテモ受信人ノ國名市名等ヲ日本字ニテ併書スレハ海外發送ノ當該郵便局ニ送付上便利少カラス

五 郵便物受取人居住地ノ所轄郵便局名ノ知レ居ル場合ニハ其表書ニ「何國何郵便區何町村」ト記スルヲ可トス

是亦取扱者ノ手數ヲ省キ郵便ノ誤送ヲ防クノ一法トス故ニ同人ニ向ヒ日常多數ノ郵便物ヲ差出ス者ハ受取人ノ所轄郵便局名ヲ問合セ置キ之ヲ表記スルヲ可トス隨テ又日常多數ノ信書ヲ受取ル者ハ自己所轄ノ郵便局名ヲ發信者ニ知ラシメ置クニト猶現今種々ノ方便ニ因リ自己ノ電話番號ヲ他人ニ知ラシムルト均シキ方便ヲ採ルトキハ其便益少カラサルヘシ

六 郵便切手ハ封筒表面ノ左上隅ニ貼附スヘシ

取扱者ノ手數ヲ省キ郵便ノ遲延ヲ防クモノニシテ差出人自己ノ利益トナルベシ概シテ取扱者ノ手數ヲ省クハ郵便ノ速達ヲ期スル所以ナルコトヲ記應スヘシ

七 郵便物ノ表面ニハ郵便日附印ヲ押捺スルニ足ルヘキ餘白ヲ存スヘシ

郵便日附印ハ引受又ハ到着ノ日時ヲ證明スルモノトス餘白ハ成ルルヘク表面左上隅ノ切手ノ下ニ存スルヲ可トス

八 急ヲ要スル郵便物ハ郵便函ニ投入セス郵便局ニ持參スヘシ

路傍ノ郵便函ニ投入スルトキハ之ヲ郵便局ニ取集ルマテニ若干ノ時間ヲ要スヘケレハナリ

九 鐵道停車場附近ニ住スルモノ其鐵道ニ依リ遞送スヘキ郵便物ヲ差出シ速達ヲ欲スルトキハ停車場ニ設ケタル郵便函ニ投入スルヲ可トス

鐵道停車場内ニ設ケタル郵便函ニ投入シタル郵便物ハ鐵道郵便列車出發ノ際之ヲ取集メ郵便局ニ持戻ラス直ニ其郵便列車中ニテ其送達先ヲ區分スルニ因リ普通ノ郵便函ニ投入スルモノヨリモ速達ノ効アルヘシ尤モ停車場郵便函ハ必要ニ應シ漸次上リ便又ハ下リ便ヲ區別シ分置スヘキ筈ニ付其區別アル所ハ必ラス其方向ノ指定アル郵便函ニ投入スヘシ若シ反對ノ方向ニ達スルモノヲ投入スルハ一旦不當ノ方位ニ持越シ更ニ送戻サ、ル可ラサルヲ以テ却テ延著ヲ生スヘシ

十 小包郵便物ハ其物品ノ性質形體ニ應シ適當ナル材料ヲ用ヒテ包裝スヘシ

包裝不完全ナルトキハ遞送途中ニ於テ汚損スルノ憂アルノミナラス他ノ郵便物

○郵便電信發受心得

ニ損害ヲ及ホスユトアリ又弱質ノ紙例ハ新聞紙類ヲ用ヒテ包装スルキハ容易ニ破損シ爲メニ宛名不分明ニ歸シ配達ヲ爲シ得サルモノアリ故ニ相當ノ包装ヲ爲シ是等ノ損害ヲ避クヘシ又海外又ハ臺灣各地ノ如キ遠距離ニ達スルモノハ籠詰ノ如キモノト雖モ猶上箱ニ納ムル等ノ手當ヲ要ス

十一 小包郵便物ニ信書ヲ包入スルノ嚴禁タルコトニ留意スルヲ要ス

小包郵便物中ニ信書ヲ包入シタルトキハ處罰アリ且該郵便物ハ名宛人ニ送達セズシテ差出人ニ還付スルノ成規タルコトヲ忘ルヘカラス

十二 成ルヘク郵便受取函ヲ設ケ置クヘシ

早朝若クハ夜間ニ郵便ノ配達ヲ受クルニ當リ忙ハシク起キ出テ門戸ヲ開クハ受取人ニ於テモ煩ハシカルヘク配達モ亦爲ニ時間ヲ徒費シ他ノ郵便物ノ配達ヲ遲延スルニ至ルヘシ故ニ毎戸必ス受取函ヲ裝置スルヲ要ス

電信ノ部

十三 受信人ノ住所ハ簡明ニシテ配達ニ差支ナキヲ期シ成ルヘク不必要ノ文字ヲ省クヘシ

字数ノ多キモノハ送信ニ費ス時間モ亦多ク延テ電報ノ遲著トナル故ニ用事ニ非

ラサル部分ノ字数ハ成ルヘク省略スルヲ便トス隨テ有名ナル土地ニシテ錯誤ノ虞ナキモノハ國名郡名ナト省クモ差支ナシ例ヘハ三府五港ヲ始メトシ宇都宮仙臺小倉鳥取ノ如シ又東京市ノ「市」横濱港ノ「港」ノ如キ類ハ全ク不必要トス

十四 發信人ノ住所ハ成ルヘク省略スヘシ又氏名モ成ルヘク簡單ニスヘシ或ハ全ク記載セサルモ差支ナシ

日常電報又ハ郵便ノ往復頻繁ナルモノ相互ノ間ニアリテハ其都度住所ヲ知ラシムルノ必要ナカルヘシ又氏名ニ代フルニ屋號ヲ以テスルモ可ナラン或ハ受信者ニシテ發信者ノ誰タルコトヲ認メ得ヘシト信スル場合ハ全ク發信者ノ氏名ヲ略スルモ亦可ナラン就中會社名ノ如キニ至テハ株式、合資、合名等ノ字句ヲ省略スルモ差支ナカルヘシ電報ノ速達ヲ望ムモノハ發信人自ラモ亦是等ノ注意ヲ怠ルヘカラス

右ハ傳送文字ヲ省略スルニ必要ナル注意ナリト雖モ發信人ニ報告問合セ等ヲ爲ス場合住所氏名不分明ナルトキハ差支アルニ因リ別ニ欄外又ハ餘白ニ之ヲ記載スヘシ此分ハ傳送セサルモノ故本字ニテ記載スヘシ

十五 電報宛名ニハ著名ナル人名若クハ官名ハ成ルヘク簡易ニシテ錯誤ノ虞ナキ限

○郵便電信發受心得

リハ省略スヘシ

發信者モ亦同シ

例ハハ遞信大臣何爵何誰ト書セス單ニ遞信大臣トスルノ類トス

十六 電報宛名ニハ散稱ヲ省略スヘシ

電報宛名ニ往々殿又ハ閣下等ノ敬稱ヲ附記スルコトアルモ右ハ受信人發信人ノ間ニ於テ互ニ宥恕スルモノト見做シ一切附記セサルヲ可トス

十七 和文電報ハ發信人受信人ノ住所氏名ヲ本字ニテ記載スルトキハ片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ

住所氏名ヲ本字ニテ記載スル者往々アリ然ルニ電報ハ假名符號ニテ傳送スルモノナレハ本字ニテハ取扱方不便ナリ殊ニ普通ノ讀方ニ違フモノ又ハ讀ミ兼ルモノアレハ爲メニ意外ノ誤リヲ生シ甚ダシキハ不達ニ歸スルコトナシトセス

十八 電報文中數字ノ如キハ成ルヘク再記スル方安全ナリ

電報文ハカメテ無用ノ文字ヲ省キ簡略ニ記載スル習ナレハ一字ノ誤リモ之レカ爲メ大ナル損害ヲ醸スコトアリ數字ニテ特ニ然リトス然ルニ是等ハ傳送上誤リアルモ取扱者ハ其誤リヲ發見スルノ方便ニ乏シクハ隨テ其ノ誤リヲ傳播シ易

シ故ニ之ヲ再記スレハ誤リヲ防キ又ハ防キ得サルモ受信人ニ於テ誤リナルコトヲ發見シ易シ例ヘハ「一五(シウゴ)」ト再記スルカ如シ

十九 返信料前納電報ヲ受取りタルモノハ餘事ハ差繰リ直ニ返電ヲ配達人ニ交付スヘシ

返信料前納電報ノ配達ヲ受ケ長時間配達人ヲ待タシムル者アリ是亦自然電報滯ノ原因ヲナス故ニ受信人ハ即時ニ返電ヲ交付スヘシ若シ即時ニ交付シ難キニ於テハ配達人ヲハ直ニ還シ返電ハ自己ヨリ別ニ電信局ニ差出スヘシ

郵便電信共通ノ部

二十 書留郵便物若クハ小包郵便物又ハ電報ノ配達ヲ受ケタルトキハ速ニ其配達證ニ捺印シテ集配人ニ返付スヘシ

郵便電信配達人ハ迅速ニ其郵便又ハ電信ヲ配達スヘキモノナレハ之ヲシテ徒ニ時間ヲ遷延セシムルトキハ他ノ郵便又ハ電信ノ配達ニ差支ヲ生スヘシ
受信人ノ中ニハ其配達ヲ受ケタル郵便又ハ電信ヲ披見シタル後始メテ配達證ヲ返付スルモノアリ是等ハ時間遷延ノ一大原因タルニ依リ此ノ如キ所爲ナカラン
コトヲ要ス

○郵便電信發受心得

二十一 集配人ニ向ヒ途中ニテ地理ノ質問ヲ爲ス類ノ事ヲ慎ムヘシ

集配人ハ町名番地等ヲ知ルコト常人ニ超ユルヲ以テ之ニ向ヒ質問ヲ爲ス者モ往々之レアリ是レ配達ヲ遲滞シ一般ノ交通ヲ害スルニ付公衆ハ務メテ此ノ如キコトヲ避クヘシ要スルニ集配人ニ對シテハカメテ其行走ノ便利ヲ妨ケサルコトニ注意スヘシ

二十二 家屋ノ番號札ハ成ルヘク筆太ニ且ツ鮮明ニシテ見易キ場所ニ掲クヘシ

番號札不明瞭ノ爲メ配達人入替ノ際ナト無用ノ時間ヲ費スコト多キ爲メナリ

二十三 住居人搜索ニ困難ナル場所ニ在リテハ適宜道シルベノ高札ヲ建ル等ノ工夫ヲ回ラスヘシ

例ハ廣漠ナル同番地内ニ數多ノ住居アル場所ノ如キハ番數ノ外ニ號數ヲ設ケ且ツ地主又ハ住居人ノ注意ヲ以テ回り角ニ高札ノ類ヲ設ケ道シルベヲ示シ又番號ノ錯雜シ若クハ町名ノ入組メル場所ノ如キモ均シク回り角ニ道シルベヲ掲クル等ノ工夫アルヘシ猶一步ヲ進メテ云ヘハ町名錯雜セル市街地ノ如キハ市町吏員等ノ注意ヲ以テ各町ノ始メ終リニ適宜ノ方法ニ依リ例ヘハ入口ノ家屋ノ屏牆ニ「是ヨリ何町何丁目」ト云フ標札ヲ掲クル如キ工夫アランコトヲ望ム是レ獨

リ郵便電信ノ配達ノミナラス一般ノ交通上裨益スル所少カラサルヘシ

○郵便電信發送心得中追加

明治三十一年十二月遞信省告示第三百五十二號

本年三月遞信省第三十七號郵便電信發受心得中郵便ノ部ニ左ノ一項ヲ追加ス

一特殊ノ目的ヲ以テ發行シタル郵便切手類ハ明治三十二年一月一日以降外國郵便ニ使用ス可ラス

假令ハ二十七年三月發行大婚二十五年祝典切手ノ如キ二十九年八月發行故有極川宮故北白川宮兩殿下ノ御尊影ヲ附シタル切手ノ如キ特殊ノ目的ヲ以テ一時限リ發行シタルモノハ萬國郵便條約ニ依リ萬國郵便事務ニ使用ヲ許サ、ルコト、ナリタルヲ以テ若シ右等切手ヲ外國郵便物ニ貼附スルトキハ無効トナルヘキニ依リ發信人ニ於テ注意スルヲ要ス

○郵便爲替及郵便貯金ニ關スル心得

明治三十二年四月遞信省告示第二百二十五號

○郵便爲替及郵便貯金ニ關スル心得

郵便爲替振出及拂渡ニ關シ爲替差出人受取人ノ注意及ヒ郵便貯金預入等ニ關シ貯金預ケ人ノ注意ハ直接關係者ノ利益トナルノミナラス取扱上ノ敏活ヲ助クルニ依リ成ルヘク左記心得書ノ趣旨ヲ守ルヘシ

爲替ノ部

一爲替證書ニ記載スル差出人受取人ノ宿所氏名及ヒ金額ハ誤謬ナキヲ期シ且ツ努メテ明瞭ニ記載スルコトヲ要ス

爲替ハ願書ニ依リテ證書ノ眞偽ヲ確メ尙ホ受取人ノ正否ヲ判別スルノ用ニ供スルモノナレハ其記載方ニ不明瞭ノ兼アルカ又ハ誤謬ノアルトキハ該爲替金ノ拂渡遲延シ受取人ノ迷惑ヲ惹起スヘキヲ以テ最モ注意ヲ要ス

一通常爲替及電信爲替ヲ差出ストキハ爲替料相當ノ郵便切手ヲ購入シ必ス之ヲ願書ニ添ヘ差出スヘシ

爲替ヲ取組ム者ハ爲替取扱局所前ニ揭示アル爲替料額表ニ依リ爲替金高ニ應シ爲替料ニ相當スル郵便切手ヲ購入シ之ヲ願書ニ添ヘ差出スヘシ決シテ切手ヲ願書ニ貼付スヘカラス

一五圓以下ノ金額ハ小爲替ト爲シ取組ヲ便宜トス

通常爲替ヲ取組ムニハ爲替證書ニ要シ尙ホ又小爲替ニ比シ多額ノ爲替料ヲ要スルノミナラス爲替金受取方ニ付テモ手數多キヲ以テ斯ル少額ノ金員ハ小爲替トシテ取組ムヲ便宜トス

一小爲替證書金額直下ニ取扱主任認印押捺シアルヲ認ムヘシ

小爲替證書金額直下ニ取扱主任ノ認印ナキトキハ拂渡局所ニ於テ之レカ拂渡ヲ爲サ、ルニ依リ差出人證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ即時ニ認印ノ有無ヲ檢シ若シ押捺洩ナルトキハ之レカ押捺ヲ求ムヘシ

一小爲替受取人ヲ指定スルト否トハ差出人ノ隨意ナリ

小爲替證書ノ受取人ヲ指定スルト否トハ差出人ノ隨意ナルモ之レカ指定ヲ爲サントスルトキハ誤謬ナキ様證書相當欄ニ其宿所氏名ヲ記載スヘシ若シ一字ニテモ誤記シタルトキハ之ヲ訂正シ當該證書ト共ニ受領證書ヲ爲替取扱局所ニ差出シ其許可ヲ受ケタル後之ヲ送付スヘシ

一小爲替差出人ハ受取人指定ノ變更若クハ取消又ハ拂渡局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

小爲替差出人ノ都合ニ依リ其指定シタル受取人ノ變更ヲ要シ又ハ該指定ヲ取消

○郵便爲替及郵便貯金ニ關スル心得

サレトスルトキ又ハ拂渡局所ノ變更ヲ要スルトキハ當該證書ト共ニ受領證書ヲ爲替取扱局所ニ差出シ之カ訂正ノ許可ヲ受ケタル後之ヲ送付スヘシ

一電信爲替受取人郵便區ノ市外ニ住スルトキ差出人ニ於テ該爲替證書ノ至急送達ヲ望ムトキハ別使送達ヲ請求スヘシ

電信爲替受取人郵便區ノ市内ニ住スルトキハ郵便配達時間ニ拘ラス直ニ證書ヲ送達スルモ市外ニ住スルトキハ普通郵便配達ノ際共ニ配達ノ爲スモノナルニ依リ緊急ヲ要スルモノナルトキハ振出ノ際證書ノ別使送達ヲ請求スルヲ可トス其料金ハ十八町毎ニ六錢ノ割合ヲ以テ爲替受取人ヨリ徴收スルモノトス

一爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ必ス其爲替證書ニ記名調印(小爲替ニアリテハ宿所ヲモ記載スヘシ)上差出スヘシ

爲替金ヲ受取ラントスルトキハ先ツ以テ爲替證書相當ノ部ニ記名調印シ然ル後拂渡ヲ要求スヘシ尤モ小爲替ニ限り宿所ヲモ明記スヘシ尙ホ調査上必要ノ場合モアルヘキニ付該爲替證書封入ノ封皮ハ可成携帶スルヲ便宜トス

一爲替金ハ可成速ニ受取ルヲ可トス

通常爲替證書ノ有効期限ハ振出ノ日ヨリ百二十日又小爲替證書ハ振出ノ日ヨリ

六十日ナルニ依リ爲替金ハ右ノ期限内ニ受取ルヘシ若シ該期限ヲ過クルトキハ證書ノ書換ヲ請求スルニアラサレハ拂渡ヲ受ケ得サルニ依リ注意スヘシ尤モ臺灣又ハ小笠原島ト其以外ノ地トノ間ニ取組ム小爲替證書ノ有効期限ハ振出ノ日ヨリ九十日ナリ

一通常爲替證書金額報知書金額ト不符合ノ場合ニ於テハ少額爲替金ノ假拂渡ヲ受クルコトヲ得

通常爲替證書ト報知書ト金額不符合ノ場合ニ於テハ一應振出局所ニ正當金額ヲ問ヒ合セタル上拂渡ヲ爲ス儀ナルモ右ノ場合ニ於テ少額拂則チ證書又ハ報知書ニ記載アル金額ノ少ナキ方ニ依リテ拂渡ヲ請求スルヲ得ルニ依リ右ノ方ニ依ルヲ便宜トス然シテ若シ不足拂トナリタルコト判明シタルトキハ拂渡局所ニ於テ直ニ不足金額ノ追拂ヲ爲スヘシ

一代人ニテ爲替金ヲ受取ルトキハ本人ハ委任ノ手續ヲ爲シ代人ハ證書相當ノ部へ代人タルノ肩書ヲ付シ記名調印スルヲ要ス

代人ニテ爲替金ヲ受取ルトキハ證書裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ代人肩書若ハ委任狀ヲ用フルコト各受取人ノ隨意ナルモ證書裏面ニ委任ノ文言ヲ記載スル

○郵便爲替ニ郵便貯金ニ關スル心得

ヲ最モ便宜ノ方法ナリトス其記載方ハ左ノ如ク書スルヲ可トス
本證書ノ金額受取方ヲ何某ニ委任致候

(小爲替ハ宿所ヲ記載スヘシ)
本人 氏 名 印

一 學校兵營工場等ニ於テハ取締ノ爲メ爲替拂渡上ニ關シ拂渡局所ニ特別取扱方ノ請求ヲ爲スヲ可トス

學校兵營工場等ノ如キ常時多人數集合セル場所ニ於テハ爲替金ヲ詐取セラルルコトナシトセス故ニ之ヲ豫防スル爲メ證明者ヲ定メ其印鑑ヲ拂渡局所ニ差出シ置キ學校等ニ在宿セル者ニ振宛テタル爲替ハ其證書裏面ニ押捺シタル印章ト先ニ差出シ置キタル印鑑ト照合シ然ル後正當手續ノ上拂渡ヲ爲スヘキコトヲ請求シ其許可ヲ受クルヲ可トス

一 常時多數ノ爲替金ヲ受取ル者ハ特別簡易ノ取扱方ヲ拂渡局所ニ請求スルヲ可トス
常時多數ノ爲替金ヲ受取ル者ハ豫メ拂渡局所ニ該局所ノ満足スル證人ヲ立テ若シ過拂誤拂ヲ生シタルトキハ直ニ該金額ヲ返納スヘキ旨ヲ保證書及本人ノ印鑑ヲ差出シ其許可ヲ得ルトキハ尋問等ヲ受クルコトナク直ニ其拂渡ヲ受ケ得ラル

ルニ依リ之レカ請求ヲ爲スヲ便宜トス

一 亡失ノ爲メ再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ正確ナル保證人ヲ立テ特別發行方ヲ請求スルヲ可トス

小爲替證書ヲ亡失シ之レカ再度證書ヲ請求スルトキハ振出ノ日ヨリ百二十日ヲ經過セサルハ再度證書ヲ發行セサルモ取扱局所ノ満足スル保證人ヲ立テ特別發行方ヲ請求スルトキハ百二十日以内ト雖モ之カ發行ヲ爲スニ依リ再度證書請求ノ際併テ之ヲ請求スルヲ可トス

貯金ノ部

一 貯金預入申込書ニハ印鑑ヲ鮮明ニ押捺スルヲ要ス

預入申込書ハ後日拂戻等ノ場合ニ於テ印鑑照合ノ用ニ供スルモノニシテ貯金ニ關シテハ最モ必要ナル書類ナレハ該印鑑ハ極メテ鮮明ニ押捺ヲ要ス

一 貯金通帳ニハ必ス預入申込書ニ押捺シタル印章ヲ直ニ押捺シ置クヘシ

貯金通帳ヲ受領シタルトキハ直ニ當該通帳印鑑ノ欄ニ預入申込書ニ押捺シタル印章ヲ押捺スヘシ若シ押捺ヲ洩ストキハ他日何レノ印章ヲ押捺シタルヤ不判明ノ場合ヲ生シ爲メニ拂戻等ノ際支障ヲ來スニ付注意ヲ要ス

郵便爲替及貯金ニ關スル心得

一 改印、轉居、改氏名等ヲ爲シタルトキハ直ニ其届出ヲ爲シ同時ニ通帳相當ノ欄ニ改印又ハ訂正ヲ加フヘシ

改印、轉居ヲ爲シタルトキハ直ニ貯金取扱局所ニ於テ該届書式紙ヲ申受ケ相當手續ノ上之ヲ該取扱局所又ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出スヘシ尤モ該式紙ヲ用キサルトキ若クハ改氏名ヲ爲シタルトキハ適宜ノ料紙ニ認メ前同様ノ手續ヲ爲スヘシ若シ改印等ヲ爲スモ其届出ヲ爲サ、ルトキハ拂戻ヲ請求スルモ印章相違又ハ宿所相違等ノ爲メ直ニ貯金ノ拂戻ヲ受ケ得ラレサルニ依リ注意ヲ要ス

一 貯金預ケ人同居者ナルトキハ必ス其同居戸主ノ氏名ヲ肩書ニ爲シ置クヲ要ス

一 戸ヲ構ヘサル者ハ同居戸主ノ氏名ヲ肩書ニ爲シ置カサルトキハ貯金登記濟通知書又ハ貯金拂戻證書等封入ノ郵便物配達上尠ナカラサル手數ヲ要スルノミナラス時ニ或ハ不明ノ爲メ該郵便物ノ配達ヲ了スル能ハサルニ至ルヲ以テ必ス記載ヲ要ス

一 改印、轉居届其他貯金ニ關シ差出ス書面ニハ必ス其通帳ノ記號番號ヲ明記スヘシ貯金ニ關スル帳簿等ハ悉ク通帳ノ記號番號ヲ以テ整理シアルニ依リ記號番號記載

載ナキトキハ之ヲ處理スル能ハサルヲ以テ該書面ヲ返戻スルニ至ルヘキニ依リ貯金ニ關シ差出ス書面ニハ必ス所持ノ通帳ノ記號番號ヲ明記スヘシ

○郵便貯金條例施行細則中改正ニ付注意事項

明治三十五年五月遞信省告示第二百廿二號

今般遞信省令第十七號ヲ以テ郵便貯金條例施行細則中改正ヲ加ヘ本月十六日ヨリ實施ニ付左ノ事項注意スヘシ

一 貯金幾部拂戻ノ手續ヲ改正シタルコト

從來貯金ノ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其全部ノ拂戻ナルト幾部ノ拂戻ナルトニ拘ラス拂戻請求書ト共ニ通帳ヲ郵便局所ニ差出シタリシモ這回改正ニ依リ全部拂戻請求ノ場合ニ於ケル手續ハ從來ト異ラサルモ幾部拂戻請求ノ場合ニ於テハ通帳ノ提出ヲ要セス單ニ拂戻請求書ノミヲ免料郵便ニテ通帳交付局所ヲ受持區域トスル郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ最寄郵便局所ニ差出シ置キ退テ管理所ヨリ拂戻證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ該證書記名ノ下ニ調印シ通帳ト共ニ之ヲ拂渡局所ニ差出シ通帳ニ拂戻金ノ記入ヲ受ケ現金ヲ受領スルコト

○郵便貯金條例施行細則中改正ニ付注意事項

一貯金即時拂戻ノ金額及回数ヲ擴張シタルコト
從來即時拂戻ハ一箇月一回金二十圓迄ニ限リタリシモ這回改正ニ依リ一箇月ノ回数ヲ二回ニ一回ノ金額ヲ三十圓迄ニ擴張セリ

一貯金特別即時拂戻ノ方法ヲ創設シタルコト

前項ノ如ク即時拂戻ノ金額及回数ヲ擴張シタリト雖モ該即時拂戻ハ郵便局所ニ於テ正當預ケ人ナルヤ否ヲ確カムヘキ資料ナク唯々單ニ郵便局所ニ於テ預ケ人ヲ熟知シ正當權利者ナリト認メ得ル者ニ對シ其取扱ヲ爲スヘキモノニシテ都會ノ地在リテハ其實行困難ナルノミナラス金額及回数ニ制限アルヲ以テ未ダ預ケ人ノ需要ヲ満足セシムルニ足ラス依テ特別即時拂戻ニ關スル規定ヲ設ケ一、二等局及其支局並ニ清國及韓國ニ設置シアル郵便局所ニ於テハ豫メ認可ヲ受ケタル預ケ人ニ對シ金額及回数ニ制限ナク即時拂戻ヲ取扱フコト、セリ故ニ前記各局所ニ於テ始メテ預入ヲ爲ス者ハ預入申込書ト共ニ其副本ヲ差出シ又既ニ通帳ヲ所持スル者ハ該通帳ヲ呈示シ且預入申込書ノ副本ヲ差出シ特別取扱ノ認可ヲ受ケルヲ便宜ナリトス但シ既ニ通帳ヲ所持スル者ヨリ特別取扱ノ認可ヲ請求アルトキハ手数料金五錢ヲ要スルモ改正規定施行前ニ通帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ニ對シテハ施行後三

ヶ月間ハ手数料ヲ免除スルモノトス

一利子記入及檢閲ヲ了シタル通帳並ニ再度通帳ハ預ケ人ノ居所ニ就キ之ヲ交付スルコト

從來郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ利子記入又ハ檢閲ヲ了シタル通帳若クハ再度通帳ハ郵便局所ニ於テ預ケ人ノ出頭ヲ待テ交付スルノ制ナリシカ之ヲ改正シ預ケ人ノ出頭ヲ待タズ直ニ郵便集配人ヲシテ預ケ人ノ居室ニ就キ彙ニ交付シタル通帳受取證書ト引換ニ通帳ヲ交付スルモノトス

一再度通帳交付手数料ヲ低減シタルコト

從來通帳亡失又ハ毀損汚斑ノ爲メ再度通帳交付請求ニ對スル手数料ハ金十錢ナリシモ之ヲ五錢ニ低減セリ

一家督相續又ハ遺産相續ノ場合ニ於ケル證明方法ヲ改正シタルコト

預ケ人死亡シ其家督相續人又ハ遺産相續人ニ於テ貯金ヲ相續シタルカ爲メ通帳名前書換又ハ貯金轉記ヲ請求スル場合ニ於テハ從來證人ヲ立テ其事實ヲ證明セシムルノ外尙ホ戶籍吏ノ相續證明書又ハ戶籍ノ謄本ヲ差出サシムル制ナリシモ這回之ヲ改メ家督相續ノ場合ニアリテハ保證人ヲ立ツルカ又ハ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ差

○郵便貯金條例施行細則中改正ニ付注意事項

出スカ孰レカ一方ニヨリ之ヲ證明シ遺産相続ノ場合ニアリテハ單ニ保證人ヲ立テ證明セシムルコト、セリ

一公債證書購入請求手續ヲ改正シタルコト

從來貯金ヲ以テ公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘキノ制ナリシモ這回之ヲ改メ公債證書購入請求書ハ通帳ノ添付ヲ要セス直接ニ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ最寄ノ郵便局所ニ差出ストキハ管理所ニ於テ公債證書ヲ購入シ其保管證書ヲ郵便局所ニ回送シ其旨ヲ預ケ人ニ通知スルヲ以テ預ケ人ハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ之ニ購入代金及手数料ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケ保管證書ノ交付ヲ受クルコト

一公債證書下渡證書ヲ廢シタルコト

從來公債證書ヲ下渡ストキハ管理所ヨリ下渡證書ヲ請求人ニ送付スル制ナリシカ這回之ヲ改メ請求人ニ對シテハ管理所ヨリ單ニ下渡ノ旨ヲ通知シ下渡局所ニ於テ請求人ヲシテ下渡請求書中受領證明ノ部ニ記名調印シ且保管證書ヲ差出カシメ公債證書ヲ交付スルコト、セリ

一改印届書ニハ保證人ノ連署ヲ要スルコト

從來改印届ニ對シテハ別段ノ規定ナリシカ爲メ奸黠ノ徒之ヲ奇貨トシ他人ノ貯金ヲ騙取スル場合モ尠カラサルヲ以テ預ケ人ヲ保護スル爲メ特ニ改印届ノ場合ニハ保證人ヲ立テシムルコト、セリ

第三編 電信電話

○電信法

明治三十三年三月法律第五十九號

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

- 一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ
- 三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

○電信法

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ
五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルチ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲カシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ塙壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコト

ヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得
第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セ

第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコ

トヲ得ス

前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シ

タル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ限り發行人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止

スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日

ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發行人ニ對シ其ノ電報ニ用キタル秘

辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發行人若シ其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ

取扱ヲ拒絕ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル

制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及ヒ過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除

クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發行人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ受信人ヨリ

其ノ不足額ノ二倍ノ料金を徴收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内

ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ依リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ

國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯

金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スニトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切

手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官

署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消

減ス

第二十六條

電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條

權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ施設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十八條

第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ施設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十九條

第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地、建物ノ使用ヲ拒ミ

若ハ建物ノ建築改築ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條

第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條

電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條

不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金を免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十三條

自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス

○電信法

電信事務ニ従事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ従事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未ダ消印ヲ爲サ、ルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非カル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ従事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障礙シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス過失ニ因リ通信ヲ障礙シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲キ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ従事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其代表者又ハ雇人其ノ他ノ従業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テ

ハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ共スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖モ通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

○電報規則

明治三十三年九月遞信省令第四十六號

編者曰ク該規則ハ發布ノ後三十五年遞信省令第十號三十六年全省令第五十四號ヲ以テ條中改正アリ依テ茲ニ之ヲ修正ス

第一章 總 則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス

- 一 官報
- 二 局報
- 三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信並外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、

○電報規則

領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非カレハ之ヲ官報ト爲サス
 國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報並戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政府ノ使用ニ供スル船舶若ハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得官報發送ノ資格ナキモノト雖モ受取タル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ

前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ

氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其ノ他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ

- 一 至急官報
- 二 至急局報
- 三 至急私報
- 四 官報
- 五 局報
- 六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達スヘシ

第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章 電報書法

第八條 電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用フヘキ文字及記號ハ左ニ掲クルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ウヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス

一 和文電報ニ用ウヘキモノ

○ 電報規則

Ñ N M L K J I H G F É E D C H C B Å Á Ä
又ハ

3 2 1 Z Y X W V Ü U T S R Q P Ö O

亞刺比亞數字

0 9 8 7 6 5 4

記號

重點：——
問標：——
感符：——
略符：——
新章：——
連續點：——
弧括（）：——
轉倒“”：——
字下線：——
歸除線：——

第九條 電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急	ウナ	UR
至急親展	ウニ	UC
返信料前納	ナツ	RP
○電報規則		

郵便電信規則大全

二百二十四

返信至急	ナ	ウ	R	U
返信照校	ナ	ム	R	F
照校	ム	=	F	C
電報受信報知	ツ	=	P	C
郵便受信報知	ツ	ツ	P	P
追尾	ナ	ラ	F	S
再送	ナ	ナ	R	F
同文	ム	ニ	F	M
同文連名	ニ	イ	M	A
外國郵送	ツ	ム	P	N
留置	ム	ナ	F	R
別使配達	マ	ツ	X	P
解船配達	ハ	ホ	B	D
別使料電報報知	マ	ム	X	F
別使料郵便報知	マ	ニ	X	M

書留郵便配達

ツナ

P R

無絨配達

ナレ

R O

局待

ヤム

W F

親展

ニカ

O L

第十條 電報ニ用ウル語辭ハ普通辭祕辭隱語ノ三種トス

第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅匈語又ハ歐洲國

語ニシテ其ノ意味ノ通解シ易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ

聯集及商標又ハ記號トシテ用キタル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス

第十二條 隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用キ其意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用キ日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、荷

蘭、伊太利、葡萄牙及羅匈ノ國語中ヨリ採擇スルコトヲ要ス但シ固有名詞ハ萬國

電信總理局刊行ノ隱語集ニ掲載スル者ノ外隱語トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十三條 祕辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノ

ヲ云フ

前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ祕辭ト見做ス

歐文ノ祕辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス

第十四條 濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞刺比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用ウルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限り羅馬字又ハ亞刺比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ越エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ字數ノ多少ニ拘ラス一箇ヲ一聯集トシテ記載スルコトヲ得

二箇以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖モ普通一名稱トシテ用キラル、モノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得

第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ混用

スルトキハ其ノ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス

第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限り之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若シ其地名ニシテ著明ナラカルカ又ハ他ニ類似ノモノアルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

和文電報ノ居所中不必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ズ著信地名ヲ附記スヘシ

一市區町村内ニ二箇以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」「氣付」又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第二十三條 發信人ハ自己ノ居所氏名ノ傳送ヲ要スルトキハ頼信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサムトスルトキハ和文電

報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載ス
ヘシ

第二十四條 電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ
證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條 發信人ノ記載シタル指定事項ノ略符號判然セカルモノハ其ノ略符號ナ
キ電報トシテ取扱フヘシ

略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ
相當スル略符號ニ改書スヘシ

第二十六條 發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキ
モノト雖モ電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘ
シ

第三章 字數及語數計算

第二十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入セス
一 本文

二 歐文電報ノ受信人居所氏名

但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク

三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並逐書シタル追尾電報又ハ再送電
報ノ第二以下ノ居所

四 傳送ヲ要スル發信人居所氏名

五 指定事項

六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第二十八條 和文ノ數字及記號ハ其ノ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧
ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス

第二十九條 和文電報中ニ用キタル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又
ハ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ
計算ス

第三十條 歐文ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超エカルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十
五字ヲ超ユルモノハ十五字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條 歐文電報中ニ用キタル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超エカルモノハ

○電報規則

之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超エサルモノハ五箇迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條 歐文電報中羅馬字又ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條 歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十四條 普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超

エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ユルモノハ十字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條 第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之

ヲ計算ス

第三十六條 歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯綴若ハ

省略シタルモノハ正當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依リ證

明シ得ヘキ聯綴語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ數字一箇ニ計算ス

一順序數ヲ示ス爲ニ亞刺比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二商標、祕辭又ハ亞刺比亞數字ノ聯集中ニ用キタル諸點及歸除線

第三十八條 歐文電報中連續點ヲ以テ繋キタル語及ヒ略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ

毎分語ヲ一語ニ計算ス但シ其連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十九條 歐文電報中ニ用キタル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、新章、

括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用キタル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略符號

ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章 料 金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

一市區町村内ニテ發受スル電報料

一和文 片假名十五字以内 金十錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

二歐文 五語以内 金十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

前項以外ノ電報料

○電報規則

一和文 片假名十五字以内

金二十錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

二歐文 五語以内

金二十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第四十二條 電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖モ十五字以内ノ電報料ヲ課ス

第四十三條

第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條

特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條

電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條

電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上

第四十七條

左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

一電信局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時日ヨリ遅レテ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモノヲ除ク

二電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用辨ヲ闕キタルモノ、料金但シ尋問ノ電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三電信局所ノ過失ニ依リ徵收シタル過納及誤納ノ電報料金

四發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信電報料及配達料

五電報直配達區域内ニテ配達シタル電報又ハ別使、解船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲カ、リシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タカルトキハ其ノ殘額ノ料金

七第百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シタル前納ノ返信料金

八返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セカリシトキ又ハ返信料前納電報ヲ配達シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル

○電報規則

返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セカリシトキハ前納シタル返信料金
九發信局所ニ於テ傳送前ニ返還シタル電報ノ料金

第四十八條 電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル電信局所ニ之ヲ
爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條 電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ著信局所
又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遅延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙、返信料前納證
書ヲ使用セカリシモノハ其ノ證書ヲ請求證書ニ添付スヘシ

第五十條 同文電報ノ内一通若ハ敷通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報料及同文電
報料ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トス

第五十一條 二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金還付ハ其ノ内ノ一
名ニ之ヲ爲スヘシ

第五十二條 受信人ニ於テ電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミタル
トキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信人ニ交付
シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金ヲ徵收ス

第五十三條 電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナルトキ
ハ其ノ内ノ一名ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第五章 電報差出

第五十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差
出スヘシ

第五十五條 郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載
スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限り無料トナスコトヲ得

第五十六條 電報局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報取扱時間外ニ限り發信人
ハ之ニ電報ヲ差入ル、ユトヲ得

第五十七條 左ニ掲クル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以内ニ其
ノ電報配達人ニ依託シテ電報ヲ差出スコトヲ得

一 返信料前納電報

二 局待電報

三 別使配達電報

四 解船配達電報

第五十八條 豫約金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出ス
コトヲ得ス

第五十九條 第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到着シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報取扱時間外ニ到着シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報ハ總テ次ノ取扱開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メス取扱ヲ爲スヘキ電報ヲ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル

第六十條 書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事由ヲ發信人ニ通知スベシ

第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スユトテ得此ノ場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スベシ

第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置セムトスルトキハ其局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スベシ

第六十三條 發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツユトテ發信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局符ノ略符號ヲ以テ指定スベシ

第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スベシ

第六十五條 封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無緘配達ノ符號ヲ以テ指定ス

ヘシ

第六十六條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スベシ

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ユルトキハ二里以内毎ニ金二十五錢ヲ増ス

島嶼ニ宛テタルモノ、別使配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配達實費之ニ超過シタルトキハ實費額ニ依ル

第六十八條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額ヲ納付スベシ

著信局所ヨリ三里ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルユトテ得此ノ場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スベシ

前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スベシ

第六十九條 受信人ノ追納スヘキ別使配達料ヲ發信人ニ於テ納付セントスルトキハ別使料電報報知又ハ別使料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ要スルモノ

○電報規則

ハ和文電報十五字ニ相當スル通信料金郵便報知ヲ要スルモノハ金三錢ヲ増納スヘシ

發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ル爲メ電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第七十一條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ別使配達及解船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ其ノ一方ノミヲ指定シタルトキハ其ノ不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十二條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條 發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以内ニ限り其ノ納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルユトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金三錢ヲ納付スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルユトヲ得

第六章 電線託送

第七十五條 電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルユトヲ得

第七十六條 電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局、電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者ハ電線託送料トシテ電報一通毎ニ金三錢ヲ納ムヘシ

第七十七條 前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス
前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニ在ル電信局所ヘ頼信スルモノ亦同シ

第七十八條 電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ翌月二

十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局、電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條 郵便電信局、電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ即納スヘシ

第七十六條ノ届出ヲ爲シタル電話加入者ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電線託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條 電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ料金ヲ納付セザルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

第七章 電報配達

第八十一條 電信局所ヨリ陸上一里以内及其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルヘシ

第八十二條 電報直配達區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第八十三條 電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ無料

ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ亦同シ

第八十四條 電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條 別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條 受信人自己ノ居所氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待マス著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條 局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ時々局渡證票ヲ示スヘシ

一 著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付スヘシ

第八十九條 局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖モ著信ノ際證票ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付ヲ受ケタル局所ヘ届出ツヘシ此ノ證票ハ其ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ效ヲ失フ

局渡證票ヲ亡失シタル者ハ更ニ證票ヲ請求スルコトヲ得

第九十一條 局渡證票不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條 略號又ハ配達先ノ登記及局渡證票ニ關スル料金並ニ其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條 受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ内一名ニ配達スヘシ

第九十四條 電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得

其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尙其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條 受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第九十六條 電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到着シタル日ヨリ三日以内ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ揭示スヘシ

第九十七條 發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章 尋問改正及停止

第九十八條 發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ通

知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若シ其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百一條 尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第一百二條 改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第一百三條 受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第一百四條 本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章 閱覽正寫

第一百五條 發信人又ハ受信人ハ電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報搜索上必要ナル事項ヲ示サ、ルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第一百六條 電報ノ閱覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其ノ著信局所ニ請求スヘシ

第一百七條 電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閱覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和文ハ三百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ電報ノ正寫ニハ其正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第一百八條 通常電報ニ先テ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百九條 至急電報料ハ左ノ如シ
官報 通常電報料ノ二倍
私報 通常電報料ノ三倍

第二節 返信料前納電報

第一百十條 電報ノ返信ヲ受カムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得其ノ電報ニハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 返信料前納ノ略符號

○ 電報規則

通常電報料ヲ前納スルトキ

二 返信至急ノ略符號

至急電報料ヲ前納スルトキ

三 返信照校ノ略符號

照校電報料ヲ前納スルトキ

和文十五字歐文五語ヲ超エテ返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ付記スヘシ

第百十一條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著

信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ

受信人ニ交付スヘシ

一 返信料前納ノ金額

二 受信人名

三 發信局所名、發信年月日及發信番號

四 證書發行ノ年月日

第百十二條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ

期間ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第百十三條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ

相當スル料金納付済ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送スヘシ

若シ其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當ス

ル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第百十四條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其證書ヲ使用シ著

信局所ヨリ發信局所ニ其ノ旨票金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第百十五條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハカ

ルトキハ之ヲ著信局所ニ保管ス

著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スル

トキ又ハ該期間滿了後三十日以内ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節 照校電報

第百十六條 發信人ハ電報ノ照校ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略符號ヲ

以テ指定スヘシ

第百十七條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ反覆校正スルモノ

トス

第一百十八條 照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第四節 受信電報

第一百十九條 發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得其ノ電報ハ受信電報トシテ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
一 電報受信報知ノ略符號

電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

一 郵便受信報知ノ略符號

郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第一百二十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知料ハ一通毎ニ金三錢トス

第一百二十一條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百二十二條 受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ

但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ

第一百二十三條 電報受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所へ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第一百二十四條 電報直配達區域外ニ居住スル發信人別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ賴信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ

第一百二十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第一百二十三條及第一百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第一百二十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百二十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

○電報規則

第二百二十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限り之ヲ追送スヘシ
前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ニ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第二百二十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ差出シタル
モノトシテ計算シ之ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ

第二百三十條 左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得ス
一 別使料電報報知ヲ要スル電報

二 別使料郵便報知ヲ要スル電報

三 返信料前納電報

四 受信電報

五 同文電報

六 外國郵送電報

第六節 再送電報

第三百一十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居所へ電報ノ再送ヲ要スルト
キハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第三百一十二條 留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一旦配達ヲ了リタル電
報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第三百一十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ

差出スヘシ若シ返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻ス
ヘシ

第三百一十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シタル指定
事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第三百三十條ニ掲クル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル
指定事項ノ記入ヲ請求スルコトヲ得

第三百一十五條 返信料前納電報、受信電報又ハ別使料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送ス
ルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三百一十四條ノ例ニ依リ返信
料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若クハ別使料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信
人ニ報知スヘシ

第三百一十六條 電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再送電報ノ略符號ヲ以テ指定
スヘシ

第三百一十七條 電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト看做ス

第三百一十八條 再電送報ノ再送ニ關スル料金ハ第三百二十九條ノ例ニ依リ計算徴收ス

第二百二十七條及第二百二十八條ノ規定ハ再送電報ニ準用ス

第二百三十九條 同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ同文電報ノ指定ヲ削除シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七節 同文電報

第四百十條 發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ居住スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第四百十一條 同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フル同文連名ノ略符號ヲ以テスヘシ

第四百十二條 同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

第四百十三條 同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金十錢 歐文ハ金十五錢ヲ課ス

第四百十四條 至急電報、照校電報又ハ受信電報ヲ同文電報トナストキハ原信ニ各

相當ノ略符號ヲ併記シ其至急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報知料ハ同文ノ通數ニ應ジテ之ヲ納ムヘシ

第四百十五條 前條ノ外同文電報ニ他ノ電報ノ指定事項ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當略符號ヲ記載スヘシ

第八節 外國郵送電報

第四百十六條 外國ヘ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定シ其著信局所名ヲ付記スヘシ

第四百十七條 外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十錢トス

第四百十八條 外國郵送電報ハ在清國及在韓國本邦郵便局所々在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附 則

第四百十九條 此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年五月布達第七號電信取扱規則同二十三年三月遞信省令第三號歐文電報略符號常用料金額及其ノ納付手續同年八月遞信省令第十七號電報局渡規則同年十一月遞信省令第二十一號電報配達人ニ電報差方出ヲ依頼スル規程同二十七年七月

○電報規則

逓信省令第五號著信局所ヲ指定スル規程同三十年十二月逓信省令第三十三號電話
依託電報規則其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第一百五十條 此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電線ニ依リ帝國外國間ニ往復
スル電報ニ適用セス

○電信法第五條ノ電信及電話官署ノ件

明治三十三年九月逓信省告示第三百四十一號

電信法第五條ノ電信官署ハ一等郵便電信局、電話官署ハ電話交換局トス

○電信法第六條第七條ニ依ル損害賠償及報

酬ノ請求ニ關スル件

明治三十三年九月逓信省令第五十八號

電信法第六條ニ依ル損害賠償又ハ同法第七條ニ依ル報酬ノ請求ハ其損害ヲ加ヘ又ハ
助力ヲ受ケタル電信又ハ電話ノ工夫配達人ノ屬スル局所ヲ管轄スル一等郵便電信局
又ハ電話交換局ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出
スヘシ

一等郵便電信局又ハ電話交換局ハ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求者ニ通
知スヘシ

○私設電信規則

明治三十三年九月逓信省令第四十八號

編者曰ク該規則ハ發布ノ後三十四年逓信省令第四十八號三十五年同省令第
四十號ヲ以テ條中改正セラレシモノアリ仍テ之ヲ改訂スルコト如左

第一條 此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲クル電信又ハ電話ヲ謂フ
第二條 電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ專用ニ供スルモ
ノニ限ル

一私設鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル
鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道又
ハ軌道ノ事業

○私設電信規則

二運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業

四前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條 私設電信ヲ施設セムトスル者ハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ私設鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ専用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一施設ヲ必要トスル事由

二電信又ハ電話ノ別及其ノ回線

三機械設置ノ場所道府縣郡市區町村字番地及線路經過地名

四落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

鄰接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セムトスルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ

一工事落成月日

二工事設計機械ノ種類及箇數、線路ノ巨長、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線路ノ種類、太サ及延長并保安設置法

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出ヘシ

第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以内ニ第五條第一項第二號第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限り逓信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間ニ讓渡ス

○私設電信規則

場合ヲ除クノ外當事者雙方連署ノ上逡信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間ニ讓渡シタルトキハ七日以内ニ當事者雙方連署ノ上逡信大臣ニ届出ヘシ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電信ヲ繼承シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ヘシ

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ逡信大臣ノ許可ヲ受クルニ非カレハ之ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ヘシ

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ連接郵便電信局又ハ電信局ニ届出ツヘシ

第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設電信ノ使用ヲ中止シ一箇年以上ニ及ヒタルトキハ廢止シタルモノト看做シ前

項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 市街地ニ限リ道路ニ架設スル私設電信ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ逡信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

- 一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニ架設スヘシ
- 二 道路ノ一側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若シ其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘサル様離隔スヘシ其離隔二尺ニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ逡信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

- 一 交叉ノ場合ニハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用最低電線ノ下部ニ於テ三尺以上ヲ離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ニ限リ其ノ上

部ニ三尺以上離隔シテ交叉スルコトヲ得

二接近ノ場合ニハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三尺以上特別高壓電線ニ在リテハ電柱地表上高サノ二倍以上ヲ離隔スヘシ

三特別ノ事由ニ依リ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ電柱ニ添架スルトキハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ二尺以上特別高壓電線ニ在リテハ四尺以上其ノ最低、電線ノ下部ニ離隔スヘシ

第十六條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ裝置ヲ施スヘシ其ノ已ニ架設シタル後ニ於テ交叉接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

一低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電信又ハ電話線ノ機械ニ出入スル各端ニ於テ五「アムペアー」以下ニシテ溶解スル安全器、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十「ミリアムペアー」以下ニテ溶解スル安全器ヲ設備スヘシ

二特別高壓電線ニ在リテハ逓信大臣ノ認可ヲ經タル適當ノ保安裝置ヲ施スヘシ

第十七條 屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條 私設電信ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便電信局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事並其ノ維持ハ逓信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ逓信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金を納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 逓信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認めルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 逓信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ逓信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消ス

ユトアルヘシ

第二十四條 此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄一等郵便電信局ヲ經由スヘシ

第二十五條 第六條第八條但書第九條第一項若クハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第八條第九條第二項及第三項若クハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲サ、ル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附 則

第二十八條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條ノ規定

ヲ準用ス

第二十九條 施行法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ
第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲サ、ルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖モ第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス
電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノ、既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

○私設電信規則

明治二十二年三月遞信省令第四號電信電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

○私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

明治三十三年九月遞信省令第五十號

編者曰ク該規則ハ發布ノ後三十六年遞信省令第十一號ヲ以テ改正セラレシ法條アリ仍テ之ヲ訂正ス

第一條 電信法第二條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ取扱所ノ名稱、位置ハ別ニ之ヲ告示ス但シ通信ノ取扱時間ニ制限ナキ取扱所ノ電報受付時間ハ當該取扱所前ニ之ヲ揭示ス

第二條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電報中ノ私報又ハ至急私報ト同一ノ順位ヲ以テ傳送スヘシ但シ鐵道業ノ專用ニ供スル電信又ハ電話ナルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電報ニ先チ傳送スルコトヲ得

第三條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ私設者

ノ請求ニ依リ電報取扱料ヲ支給ス

前項電報取扱料ハ電報料ノ三分ノ一以内トス

第四條 前條ノ電報取扱料ハ公衆通信取扱所ノ發信ニ付テハ其ノ發信所ノ私設者ニ郵便電信局、電信局ノ發信ニ付テハ其ノ著信所ノ私設者ニ之ヲ支給ス

第五條 公衆通信ノ取扱所ニ於テ別使配達又ハ解船配達ヲ爲シタルトキハ其ノ取扱料トシテ別ニ定ムル金額ヲ支給シ電報ノ受取證書又ハ電報ノ正寫ヲ交付シタルトキハ其ノ取扱料トシテ電報規則ニ定ムル受取證書料又ハ正寫料ノ全額ヲ支給ス

第六條 電報送受ノ爲郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ期間電報ノ託送ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 此ノ規則ハ明治三十三年九月勅令第三百五十六號第二號ニ依リ公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ニ之ヲ準用ス

附 則

第八條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十八年十月遞信省令第六號及同二十九年八月遞信省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

○私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

○私設電信規則第二十條ノ料金額及 其ノ納付手續

明治三十三年九月遞信省令第四十九號

第一條 私設電信規則第二十條第二項ニ依ル維持料ノ金額左ノ如シ

電信機一箇ニ付 年額金百六十圓

電話機一箇ニ付 年額金八十圓

第二條 維持料ハ私設電信連接ノ郵便電信局ニ納付スヘシ但シ電信局又ハ三等郵便電信局ニ連接スルモノハ其ノ管轄一等郵便電信局ニ納付スヘシ

第三條 維持料ハ年額金ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每期ノ初月十日マテニ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ 六月三十日マテ

第二期 七月一日ヨリ 九月三十日マテ

第三期 十月一日ヨリ 十二月卅一日マテ

第四期 一月一日ヨリ 三月卅一日マテ

第四條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ開始スヘキトキハ其ノ期ノ維持料ハ開始ノ月ヨリ其期ノ末月マテノ月數ヲ年額ニ乘シ之ヲ十二分シテ算出シ通報開始ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第五條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ廢止、中止又ハ停止シタルトキト雖モ其ノ期ノ維持料全額ヲ納付スルモノトス

一期ノ初日ヨリ通報ヲ廢止シ又ハ中止スル場合ニ於テ私設電信規則第十一條ニ依ル届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ期ノ維持料全額ヲ納付スルモノトス

第六條 一期ノ中途ニ於テ機械ノ種類ヲ變更シタルトキト雖モ其ノ一期分ハ變更前ノ割合ヲ以テ維持料ヲ納付スルモノトス但シ低額ノ維持料ヲ納ムヘキモノヨリ更ニ高額ノ維持料ヲ納ムヘキモノニ變更シタルトキハ第四條ノ規定ニ準シテ其ノ差額ヲ算出シ變更ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第七條 郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電鈴線ノ正午通報料ハ前各條ノ規定ニ依リ一回線ニ付年額金十二圓ヲ納付スヘシ

○私設電信規則第二十條ノ料金額及其ノ納付手續

○町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル件

明治三十六年三月勅令第四十一號

第一條 遞信大臣ハ町村ノ請願ニ依リ電信局所ヲ新設シ其ノ他電信事務取扱ノ便ヲ開クコトヲ得

第二條 前條ニ依ル施設ノ爲要スル創設費ノ全部及維持費ノ一部ハ町村ノ負擔トス維持費ノ負擔區分ハ遞信大臣之ヲ定ム

創設費ハ町村ニ於テ直接ニ之ヲ支辨シ維持費ハ之ヲ國庫ニ納付スヘシ

第三條 遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ又ハ天災事變ニ際シ維持費ニ關スル町村ノ負擔ヲ減免スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル施行細則

明治三十六年三月遞信省令第十三號
全 年十一月全省令第五十五號改正

第一條 町村ニ於テ電信事務ノ開始ヲ必要トスルトキハ左記各號ノ事項ヲ詳記シテル書面ヲ添ヘ町村長ヨリ遞信大臣ニ願出ヘシ

一 電信事務ノ開始ヲ必要トスル地名

二 最近電信事務取扱局名

三 電信事務ノ開始ヲ必要トスル地ト最近電信事務取扱局ノ設置アル地ニ至ル距離及其ノ略圖

四 電信事務ノ開始ヲ必要トスル事由

第二條 町村ニ於テ電報取扱時間ノ延長又ハ電報配達事務ノ開始ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ町村長ヨリ遞信大臣ニ願出ヘシ

第三條 本令ニ依リ町村ノ負擔スヘキ創設費支辨ノ方法及維持費ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 主務官署ニ於テ工事執行中不可抗力其ノ他ノ事故ニ由リ工事ヲ中止又ハ廢止シタル場合ニ於テモ其ノ既ニ爲シタル工事ニ對スル費用ハ町村ノ負擔トス

○ 町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル件

第五條 本令ニ依リ電信事務開始ノ爲メニ設備シタル物件ハ總テ國庫ノ所有トス但シ通信開始前ニ工事ヲ廢止シタル場合ハ此ノ限ニアラス
前項但書ノ場合ニ於テ其ノ線路及機器ハ主務官署ニ於テ撤去スルモノヲ除クノ外主務官署ノ指定スル所ニ依リ町村ニ於テ撤去スヘシ但シ主務官署ニ於テ撤去ノ爲ニ要スル費用モ亦町村ノ負擔トス

第六條 維持費ハ年額金ヲ二分シ左ニ掲クル二期ノ別ニ從ヒ六月及十二月ニ各其ノ期ノ分ヲ管轄通信管理局又ハ一等郵便局ニ納付スヘシ但シ七月又ハ一月以後ニ電信事務ヲ開始シ又ハ電報取扱時間ヲ延長シタルトキハ實施ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ期ノ分ヲ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ 九月三十日マテ

第二期 十月一日ヨリ 三月三十一日マテ

一期ノ中途ニ於テ電信事務ヲ開始シ又ハ通信取扱時間ノ制限ヲ解除シタルトキハ其ノ開始又ハ解除ノ月ヨリ其ノ期ノ末月マテノ月數ヲ年額ニ乘シ之ヲ十二分シタルモノヲ以テ其ノ期ノ維持費トス
一期ノ中途ニ於テ電信事務ノ取扱ヲ廢止シタルトキト雖モ其ノ期間ニ屬スル維持

費ハ全額ヲ納付スルモノトス

第七條 本令ニ依リ電信事務ヲ開始シタルモノハ請願ニ依リ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

電報取扱時間ノ延長ヲ爲シタル場合亦前項ニ同シ

第八條 本令ニ依ル請願ハ二町村以上共同シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 本令ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ府縣知事ノ副書ヲ具シ其ノ町村所轄ノ通信管理局又ハ一等郵便局ニ提出スヘシ

○軍用電信法

明治二十七年六月法律第五號

第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス

第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一 固定軍用電信

二 遊動軍用電信

○軍用電信法

第四條 固定軍用電信ハ要塞、衛戍、軍港、要港、海岸望樓、監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建設スルモノトス

固定軍用電信ヲ建設スルトキハ明治二十三年法律第五十八號電信線電話線建設條例ヲ準用ス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス

遊動軍用電信ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコトヲ得其ノ徵用及損害賠償ノ手續並徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス

第六條 軍用電信ハ最寄私設ノ電信取扱所ニ連接シ又ハ私設電線ノ柱木ニ添架スルコトヲ得

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

第八條 刑法第六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第五十八條乃至第六十三條及第七十一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ従事スル者軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條乃至第六十三條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタル

トキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及第六十二條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○固定軍用電信ヲ公衆通信ノ用ニ供スル件

明治三十二年四月勅令第百八十七號

朕固定軍用電信ヲ公衆通信ノ用ニ供スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
公衆通信ノ用ニ供スル固定軍用電信ハ遞信大臣之ヲ告示ス

固定軍用電信ニ依ル公衆ノ通信取扱ニ關スル規則ハ遞信大臣之ヲ定ム

○固定軍用電信公衆通信取扱規則

明治三十二年五月遞信省令第十八號

第一條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ストキハ特ニ規定スルモノ、外電信條例及電信取扱規則其他公衆通信ニ關スル規則ヲ適用ス

第二條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ストキハ軍事ニ關スル電報ノ傳送
○固定軍用電信ヲ公衆通信ノ用ニ供スル件

ヲ先ニスヘシ

第三條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ス電信取扱所ニ於ケル別使配達、

島嶼配達及解船配達ハ特ニ指定シタル電信取扱所ノ外ハ之ヲ取扱ハス

第四條 固定軍用電信ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ス電信取扱所ニ於ケル電報ノ取扱時
限及無手数料配達區域ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

○官廳用ノ電信及電話ニ關スル件

明治三十三年八月勅令第三百五十六號

官廳カ事務執行ノ爲電信電話ヲ施設スルトキハ軍用電信法ニ依ルモノヲ除クノ外總
テ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルコトヲ要ス

前項ニ依リ施設シタル電信電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信
電話ナキ地ニ施設シタルモノ並當該官廳ノ事務執行ニ差支ナキモノハ遞信大臣之ヲ
公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官廳用電信電話規程

明治三十三年九月遞信省令第五十一號

編者曰ク該規程ハ明治三十四年遞信省令第四十九號ヲ以テ條中ノ改正アリ茲
ニ之ヲ訂正ス

第一條 明治三十三年九月勅令第三百五十六號ニ依ル官廳用ノ電信又ハ電話ハ左ニ

掲クルモノニ限ル

- 一 一構内ニ施設スルモノ
- 二 警察事務及刑事訴訟事務ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 三 鐵道、軌道並私設電信規則第二條第二號乃至第四號ニ掲クル事業ノ専用ニ供
スル爲施設スルモノ
- 四 電報送受ノ目的ヲ以テ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノ
- 五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ
依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ施設スルモノ

第二條 前條ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條乃至

○官廳用ノ電信及電話ニ關スル件

至第十九條第二十一條第二十二條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス但シ前條第一號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條第十三條及第十八條ノ規定ヲ準用セス

前條第四號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第十一條第二十條及明治三十三年九月遞信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

附 則

第三條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ私設電信規則第十三條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條並明治三十三年九月遞信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條 此ノ規程施行前電報送受ノ爲郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設シタル電信又ハ電話ニ關シテニ期限ヲ定メテ契約シタルモノハ其ノ期限内ニ限り明治三十三年九月遞信省令第四十九號規定ノ維持料金額ニ拘ラス其ノ契約ニ定メタル料金額ヲ納付スルモノトス

第五條 電信條例ニ依リ施設ノ許可ヲ得タル電信又ハ電話ニ關シテハ此ノ規程施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ私設電信規則第五條第一號乃至第三號及第七條各號ニ掲クル事項ヲ記載セル書類ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第六條 此ノ規程施行前ニ於テ既ニ施設シタル電信又ハ電話ノ工事中此ノ規程ニ適合セサルモノニ關シテハ私設電信規則第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス
電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノ、既設工事ニ付テモ亦同シ

第七條 此ノ規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

○海底電信線保護萬國聯合條約罰則

明治三十五年三月法律第二十七號

第一條 萬國聯合條約ニ依ル海底電信線ヲ切斷又ハ破損シ因テ通信ヲ障害シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
過失ニ因リ前項ノ海底電信線ヲ切斷又ハ破損シ因テ通信ヲ障害シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第二條 過失ニ因リ又ハ自己ノ生命若ハ船舶ヲ保護スル爲已ムヲ得スシテ海底電信線ヲ切斷又ハ破損シタル者ハ其ノ船舶ノ初メテ到着シタル地ノ電信官署又ハ警察官署(外國ニ於テハ其ノ地所在ノ帝國領事館)ニ到着ノ時ヨリ二十四時間以内ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 條約第五條第一項第二項第三項及第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 條約第十條第二項ノ場合ニ於テ公書ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

暴行脅迫ヲ以テ其ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附 則

明治十八年七月布告第十八號海底電信線保護萬國聯合條約罰則ハ之ヲ廢止ス

○電話交換規則

明治三十年十二月遞信省令第三十一號

編者曰ク該規則ハ三十一年遞信省令第五號同第六號三十二年同省令第二號同第二十七號三十二年同省令第五十一號三十五年同省令第二十五號等ヲ以テ條中改正アリ仍テ之ヲ校訂ス

第一章 總則

第一條 此規則ニ於テ電話交換局ト稱スルハ電話交換支局ヲ包含ス

第二條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 電話加入

第三條 電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書(第一號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書(第二號書式)ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

電話加入ハ二人以上共同シテ之ヲ爲スユトヲ得ス

第四條 加入申込者又ハ加入者其使用ニ供スル電話機ニ依リ特ニ指定スル長距離電

○電話交換規則

話通信ヲ爲サムトスルトキハ其申込書(第十二號書式)ヲ電話交換局へ差出スヘシ
前項ノ申込ヲ取消シ又ハ電話通信ヲ廢止セムトスルトキハ其請求書(第十三號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第五條 電話交換局ニ於テ加入申込書又ハ長距離電話申込書ヲ受理シタルトキハ之ヲ原簿ニ登記シ其申込順番ヲ申込者ニ通知スヘシ

第六條 電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順序ニ據ル但官廳公署及公共事業ノ用ニ供スルモノニシテ急速開通ノ必要アルトキ又ハ工事施行上順番ニ據リ難キモノアルトキハ其順序ヲ變更スルコトアルヘシ

第七條 加入申込者電話機ヲ設置スヘキ場所ヲ變更セムトスルトキハ其請求書(第三號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書(第二號書式)ヲ請求書ニ添附スヘシ

第八條 加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セムトスルトキハ其請求書(第四號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ
加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ又普通電話機ヲ卓上電話機ニ變更セムトスルトキハ其請求書(第五號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第九條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ裝置ヲ爲サントスルトキハ其請求書ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但第三號ノ場合ハ加入申込者又ハ加入者私設ノ線條機械及附屬物品ニ關シテハ電話交換局ノ認可ヲ經ヘシ又其維持並交換取扱方法ハ電話交換局ニ於テ指示スルコトアルヘシ

一 加入電話機ニ受話機ヲ増設セントスルトキ
二 加入電話機設置場所ト同一戸内ニ於テ同一回線中ニ電話機又ハ電鈴ヲ増設セントスルトキ

三 加入電話機設置場所ト同一ナル自己ノ邸宅構内ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年九月遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線ニ接続セントスルトキ

四 同一邸宅構内ニ二加入以上ノ電話機ヲ有スル加入者カ其電話機ニ共通スル電話機ヲ増設セントスルトキ
五 前各號ニ依リ増設シ又ハ接続シタル電話機受話機若ハ電鈴ヲ撤去シ及接続ヲ變更又ハ廢止セントスルトキ

第十條 加入申込者其申込ヲ取消サムトスルトキハ其請求書(第八號書式)ヲ電話交

○ 電話交換規則

換局ニ差出スヘシ

第十一條 加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但第二十四條ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日マテノ日數ヲ附加ス
前項ノ加入期間以後ハ毎三月ヲ以テ加入期間トス

第十二條 加入者其加入ヲ取消サムトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ其請求書(第九號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ此請求ヲ爲カ、ル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト見做スヘシ

第十三條 加入者其使用ニ供スル電話機及其附屬物品ヲ他ニ移轉セムトスルトキハ其請求書(第三號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ移轉セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書(第二號書式)ヲ請求書ニ添附スヘシ

第十四條 加入者自己ノ加入ヲ他人ニ讓渡サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書(第十號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ其加入ヲ繼承セムトスル者ハ其相續人又ハ管理人タルノ證明書ヲ添ヘ其請求書(第十一號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ
前二項ノ規定ハ加入申込ノ讓渡又ハ繼承ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 第六條但書ニ據リ電話機ノ設置ヲ許可シタル加入申込ヲ他人ニ讓渡ストキハ其許可ヲ取消スヘシ但其既ニ設置セルモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十六條 電話加入申込又ハ加入ノ讓受人又ハ繼承人ハ其加入申込又ハ加入ニ屬スル權利義務ヲ繼承ス

第三章 電話通信

第十七條 加入者ハ其使用ニ供スル電話機ニ依リ左ノ通話ヲ爲スコトヲ得但特ニ指定スル長距離ノ通話ハ其通話ヲ爲シ得ル加入者相互ノ間ニ限ル

- 一 同一電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話
 - 二 他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話
 - 三 第十八條ニ據リ電話所ニ來リ通話スル者トノ通話
- 第九條第三號ノ裝置ヲ爲シタル加入者ハ私設電話機ニ依リ前項ノ通話ヲ爲スコトヲ得

第十八條 電信所ニ來ル者ハ電話通信心得書ニ據リ同一電話交換局ニ屬スル加入者又ハ他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話ヲ爲スコトヲ得但特ニ指定スル長距離ノ通話ハ加入者カ其通話ヲ爲シ得ル場合ニ限ル

○ 電話交換規則

第十九條 左ノ通話ハ每五分時間マテヲ以テ一通話時トス

一 通話所ニ來ル者ト加入者トノ通話

二 所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話

本條ノ通話ハ一通話時ヲ超エテ繼續スルコトヲ得ス但他ニ通話請求者ナキトキハ此限ニ在ラス

第四章 料金

第二十條 加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ加入登記料ノ外電話接續料ヲ納ムヘシ

第二十一條 加入者ハ電話使用料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スル加入者又ハ第四條ニ據リ通話ヲ爲ス加入者又ハ第八條ニ據リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第九條ニ據リ機械ヲ増設シ又ハ私設電話機ヲ接續シタル加入者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ

第二十二條 加入者第十三條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ

加入者特別加入區域内ニ於テ又ハ普通加入區域内ヨリ特別加入區域内ニ機械ノ移轉ヲ請求スルトキハ機械移轉料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十三條 電話所ニ來リ通話ヲ爲ス者ハ電話料ヲ納ムヘシ

所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話ヲ爲シタルトキハ其請求者ヨリ電話料ヲ納ムヘシ

第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ毎

一期分ヲ其期ノ初月一日ヨリ十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ

第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二十五條 加入初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其期ノ末日ニ

至ルマテノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ其加入後新ニ附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ亦同シ

第二十六條 加入者第十一條第一項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ

加入ヨリ除名セラレタルトキハ其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ノ未納額ヲ一時ニ納付スヘシ

○ 電話交換規則

加入者第十二條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ第四條第二項又ハ第八條第二項又ハ第九條第五項若クハ第十三條ノ請求ヲ爲カ、ルトキハ其次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納付スヘシ

第二十七條 電話料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

- 一 電話所ニ來ル者ハ一通話時ノ料金ヲ其電話所ニ前納シ二通話時以上ニ涉リタルトキハ通話ヲ終リタル後其未納料金ヲ納付スヘシ
- 一 加入者ハ一月分取纏メ翌月二十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第二十八條 加入登記料ハ加入申込ヲ爲ストキ電話線接續料及機械移轉料ハ電話交換局ノ指定スル期日マテニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ

第二十九條 加入登記料、電話使用料、附加使用料、電話料、電話線接續料及機械移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條 左ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

- 一 加入登記料
- 一 電話所ニ於テ納付スヘキ電話料

第三十一條 加入登記料、電話線接續料及機械移轉料ハ其申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖モ之ヲ還付セス

電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話料モ既ニ郵便切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第三十二條 加入者第十一條第二項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖モ其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス

特ニ指定スル長距離電話通信ノ廢止又ハ電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ増設機械ノ撤去又ハ電話機ノ變更若ハ私設電話機接續ノ廢止ニ因リ附加使用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セス

第四十條ニ據リ通話ヲ停止セラレタルトキモ亦其停止期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ免除セス

第三十三條 加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因ラスシテ電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亘ルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ徵收セス若シ既納ノ電話使用料及附加使用料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其不通ノ日數ニ應シ年額

金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第五章 雜則

第三十四條 加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ハ電話交換局ニ於テ之ヲ設備ス

第三十五條 電話交換局ハ時々吏員又ハ其所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此場合ニ於テハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯セシムヘシ

第三十六條 電話交換局ハ加入者ノ使用ニ供スル電話線電話機及其附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其電線、機械及物品ノ裝置シアリタル造營物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第三十七條 加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因リ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第三十九條ニ違背セル所爲ニ依リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其補充又ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第三十八條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スヘカラス

第三十九條 加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及附屬物品ヲ移轉シ又ハ其裝置法ヲ變更シ若ハ之ヲ分解スヘカラス但水火其他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此限ニ在ラス

加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ニ他ノ線條、機械等ヲ連結スヘカラス

第四十條 加入者電話使用料、附加使用料及電話料ヲ規定ノ期日マテニ納付セサルトキ又ハ第三十七條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其滯納ノ期間通話ヲ停止スヘシ加入者前條第一項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ故ナク第三十五條ノ點檢ヲ拒ミタルトキハ七日以内ノ期間通話ヲ停止スルコトアルヘシ

第九條第三號ニ依ル加入者 猥リニ其接續ヲ變更シ若ハ他ノ線條機械等ヲ連結シタルトキ及故意又ハ過失ニ因リ通話ヲ不良ナラシメタルトキハ其接續ヲ停止スルコトアルヘシ

第四十一條 加入者第三十八條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ據

○ 電話交換規則

リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以内ニ滞納ノ金額ヲ納付セサルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スヘシ
加入者第三十九條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第二項ニ據リ一年三回以上通話ヲ停止セラレタルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第四十二條 前條ニ據リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ同一ノ電話交換局ニ加入申込又ハ加入ヲ爲スヲ得ヌ

第四十三條 電話交換局ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其責ニ任セス

第六章 附則

第四十四條 此規則施行前ニ開通シタル電話機及ヒ電鈴ノ使用料ハ明治三十一年三月三十一日マテ尙ホ明治二十三年遞信省令第八號同年遞信省令第十三號明治二十五年遞信省令第九號明治二十九年遞信省令第十二號及明治二十三年遞信省令第七號電話交換局規則第十三條ノ金額ニ據ル

第四十五條 明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ニ據リ加入シタル加入者ハ第十一條及第十二條ノ期限ニ拘ハラヌ明治三十一年三月三十一日マテニ加入取消

ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 此規則施行前ニ加入申込ヲ爲シタル者ノ電話開通ノ順序ハ工事上已チ得サル場合ニ於テハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通ノモノヲ限り其申込ノ順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第四十七條 明治二十三年遞信省令第七號ノ電話交換規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一號書式)

加入申込書

私儀電話交換規則ニ遵ヒ何地電話交換ニ加入致度仍テ左ニ電話機設置ノ場所ヲ記載シ(別紙承諾書相添ヘ)此段申込候也

年月日

住所職業

何 某 印

何電話交換局御中

一電話機設置場所

何市(郡區)何町(村)何番地何々家屋

但家屋所有者ハ何某ニ有之候

○電話交換規則

(第二號書式)

承諾書

今般貴殿ニ於テ何地電話交換ニ加入ノ爲メ私所有ノ何市(郡區)何町(村)何番地何々家屋ニ電話機設置ノ趣ハ私ニ於テ故障無之候也

住所

年月日

家屋所有者

何

某

印

何 某 殿

(第三號書式)

機械設置場所變更請求書

一電話加入申込順番 (電話番號)

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機(卓上電話機又ハ電鈴)
(増設電話機、増設卓上電話機又ハ増設電鈴)ヲ左記ノ場所ニ變更(移轉)致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何

某

印

何電話交換局御中

一機械設置場所

何市(郡區)何町(村)何番地何々家屋又ハ何所

但家屋所有者ハ何某ニ有之候

(第四號書式)

卓上電話機請求書

一電話加入申込順番

加入申込書ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成電話機ヲ卓上電話機ニ致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何

某

印

何電話交換局御中

(第五號書式)

電話機變更請求書

一電話番號

私儀右電話加入ノ(右電話加入ノ)電話機回線中ニ増設シタル卓上電話機(普通電

○電話交換規則

話機)ヲ普通電話機(卓上電話機)ニ變更致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何 某 印

何電話交換局御中

(第六號書式)

機械増設請求書

一電話加入申込順番

(電話何番)

加入申込書ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス

私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機回線中ニ電話機(卓上電話機又ハ電鈴)何箇増設致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何 某 印

何電話交換局御中

(第七號書式)

増設機械撤去請求書

一電話番號

私儀都合ニ依リ右電話加入ノ電話機回線中ニ増設シタル電話機(卓上電話機又ハ電鈴)何箇ヲ撤去致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何 某 印

何電話交換局御中

(第八號書式)

加入申込取消請求書

一電話加入申込順番

私儀都合ニ依リ右電話加入申込ヲ取消致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何 某 印

何電話交換局御中

(第九號書式)

○電話交換規則

加入取消請求書

一 電話番號

私儀都合ニ依リ何年何月何日限り右電話加入ヲ取消致度此段及請求候也

住所職業

年月日

何

某 印

何電話交換局御中

(第十號書式)

加入讓渡請求書

第何番電話加入者

何

某

右ノ者今般都合ニ依リ右電話加入ヲ何某ニ讓渡度御許可ノ上ハ讓受人ニ於テ電話交換規則ニ遵ヒ加入者タルノ責務ヲ引受可申仍テ當事者連署ヲ以テ此段及請求候也

住所職業

(加入者何某管財人又ハ何々)

讓渡人

何

某 印

年月日

住所職業

讓受人

何

某 印

何電話交換局御中

(第十一號書式)

加入繼承請求書

第何番電話加入者

何

某

右ノ者今般何々ニ付右電話加入ヲ私ニ於テ繼承致度御許可ノ上ハ電話交換規則ニ遵ヒ加入者タルノ責務ヲ引受可申仍テ別紙證明書相添ヘ此段及請求候也

住所職業

繼承人

何

某 印

年月日

何電話交換局御中

(第十二號書式)

長距離電話申込書

一 電話加入ノ申込順番

(電話番號)

○ 電話交換規則

加入申込書ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス
私儀加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機ニ依リ長距離電話ノ通
信致度此段申込候也

住所職業

何 某 印

年月日
何電話交換局御中
(第十三號書式)

長距離電話申込取消(通信廢止)請求書

一電話加入申込順番 (電話番號)

私儀都合ニ據リ加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機ニ依ル長距
離電話ノ申込ヲ取消(通信ヲ廢止)致度此段及請求候也

住所職業

何 某 印

年月日
何電話交換局御中

○電話呼出規程

明治三十三年八月遞信省令第四十號

第一條 電話加入者ハ別ニ指定スル地域内ニ居住スル者ヲ電話所ニ呼出シ通話スル
爲所屬電話交換局又ハ電話交換支局ニ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得
電話所ニ來ル者モ亦前項ノ請求ヲ其ノ電話所ニ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ請求ヲ爲ス者ハ電話呼出料及一通話時ノ電話料ヲ納ムヘシ
電話所ニ來ル者ハ郵便切手ヲ以テ前項ノ料金ヲ其ノ電話所ニ前納シ電話加入者ハ
一箇月分取纏メ翌月二十日マテニ通貨ヲ以テ之ヲ所屬電話交換局又ハ電話交換支
局ニ納付スヘシ

第三條 電話呼出料及電話料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 電話呼出ノ請求アルトキハ其ノ呼出地域内ニ在ル電話所ニ於テ呼出通話券
ニ左ノ事項ヲ記入シ電話料前納證書トシテ之ヲ被呼者ニ交付スヘシ
一 電話料前納ノ金額
二 被呼者ノ居所及氏名

○電話呼出規程

- 三 請求者ノ氏名及請求ヲ爲シタル加入者又ハ請求ヲ受ケタル電話所ノ所屬電話交換局若ハ電話交換支局名並電話番號
- 四 被呼者ノ電話所ニ來ルヘキ時間ハ指定アルトキハ其時間
- 五 證書ノ發行所名及發行年月日

第五條 電話料前納證書ヲ受領シタル者ハ其ノ證書記載ノ金額ニ相當スル電話料納付済ノモノトシ何レノ電話所ニ於テモ呼出通話券ヲ以テ通話スルコトヲ得

第六條 呼出通話券ヲ以テ通話スル者ハ其ノ一通話時ノ電話料ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ呼出通話券ニ貼付シ差出スヘシ若シ二通話時以上ニ涉リ電話料ニ不足ヲ生シタルトキハ通話ヲ終リタル後其ノ不足額ニ相當スル郵便切手ヲ納ムヘシ

第七條 電話料前納證書ノ使用期限ハ發行ノ日ヨリ七日以内トス此ノ期限ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第八條 第二條ニ依リ電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話呼出料ニシテ既ニ郵便切手ニ消印シタルモノハ之ヲ還付セス

第九條 第二條ニ依リ電話加入者ノ納ムヘキ電話呼出料及電話料ハ其ノ請求ヲ取消

シ又ハ其ノ請求ニ對シ發行シタル呼出通話券不用ニ屬シタルトキト雖モ之ヲ納付スヘシ

第十條 居所不分明其ノ他ノ事故ニ依リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ居所氏名ヲ記載シテ三日ヨリ少カラサル間之ヲ著信電話所前ニ揭示スヘシ

第十一條 被呼者ニ交付スルコト能ハサル電話料前納證書ハ發行ノ日ヨリ七日間之ヲ著信電話所ニ留置クヘシ此ノ期限内ハ被呼者ヨリ其ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 呼出請求者ハ被呼者ノ居所氏名又ハ呼出時間ニ改正ヲ要スルトキハ呼出請求ノ時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ其ノ請求局所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ改正ヲ請求スル者ハ第二條第二項ノ例ニ依リ電話呼出料ヲ納ムヘシ

第十三條 電話取扱上ノ過誤ニ起因シ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付セサルカ又ハ居所不分明其ノ他ノ事故ニ依リ之ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルカ又ハ被呼者ニ於テ其ノ受取ヲ拒ミ若クハ交付シタル證書ヲ其ノ使用期限内ニ使用セサルトキハ呼出請求者ハ證書使用期限後料金納付ノ日ヨリ三十日以内ニ電話料ノ還付ヲ發信加入者又ハ電話所所屬ノ電話交換局若クハ電話交換支局ニ請求スルコトヲ得但

シ被呼者ノ受領シタル證書ハ之ヲ請求書ニ添付スヘシ
電話所ニ來リ呼出ノ請求ヲ爲シタル者ノ請求ニ依リ電話料ヲ還付スルトキハ郵便
切手ヲ以テスヘシ

第十四條 明治三十年十二月遞信省令第三十一號電話交換規則第四十條乃至第四十
二條ノ規定ハ本規程ニ依リ加入者ノ納ムヘキ料金滯納ノ場合ニモ之ヲ準用ス

○特設電話加入規則

明治三十五年七月遞信省令第二十九號

- 第一條 電話交換局加入區域外ニ在ル電話所所在地及其附近ニ居住スル者ハ本令ノ
定ムル所ニ依リ電話加入ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ電話加入ヲ爲シ得ル電話所ハ之ヲ告示ス
- 第三條 電話加入ヲ爲サントスル者ハ左記各號ノ事項ヲ詳記シタル書面ヲ添へ遞信
大臣ニ願出ツヘシ
- 一 電話機設置場所
 - 二 電話所ト電話機設置場所トノ距離及略圖

三 長距離加入ヲ爲サントスルモノハ其旨

第四條 加入申込者ハ主務官署ノ指定スル所ニ依リ通話ニ必要ナル一切ノ設備及維
持ヲ負擔スヘシ但電話所内ニ屬スルモノハ此限ニアラス

第五條 明治三十三年九月遞信省令第四十八號私設電信規則第十二條第一項第十三
條乃至第十九條及第二十一條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第六條 加入申込者第三條ノ認可ヲ受ケタルトキハ六箇月内ニ工事ニ著手スヘシ若
シ其期間ニ著手セサルトキハ其認可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 前條ノ工事落成シタルトキハ加入申込者ハ其旨ヲ直ニ電話所所屬ノ電話交
換局ニ届出ツヘシ

第八條 加入者ハ其使用ノ電話機ニ依リ電話線ノ接續アル他ノ加入者及電話所ト通
話ヲ爲スコトヲ得但長距離通話ハ其認可ヲ受ケタル加入者ニ限ル

第九條 加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ

第十條 加入者ハ一通話毎ニ明治三十年十二月遞信省令第三十二號ニ定ムル所ノ電
話料ヲ納ムヘシ但同一電話所ニ屬スル加入者相互間ノ通話ハ此限ニアラス

第十一條 加入者ノ使用スル電話機ハ一加入毎ニ一箇トス若シ電話機ヲ増設セント

○特設電話加入規則

スルトキハ所屬電話交換局長ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 加入者ハ一加入毎ニ電話交換料ヲ納ムヘシ

第十三條 加入登記料及電話交換料ハ別ニ告示ス

第十四條 電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亘ルトキハ其日數ニ應スル電話交換料ヲ徴收セス既ニ納付シタルトキハ加入者ノ請求ニヨリ其不通ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ還付スヘシ但其不通カ加入者ノ負擔ニ屬スル線路及機械等ニ原因スル場合ハ此限ニアラス

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第十五條 加入者ニシテ主務官署ノ指揮命令ニ従ハサルモノアルトキハ其加入ヲ取消スユトアルヘシ

第十六條 本令ノ認可ハ加入者所在地ニ明治三十年十二月遞信省令第三十一號電話交換規則ニ依ル電話交換ヲ開始スルトキハ其效力ヲ失フ但シ其失效ノ期日ハ六箇月前ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一般ノ電話交換ニ繼續加入セントスル者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月内ニ更ニ願出ツヘシ

第十七條 加入者ノ所在地又ハ其附近ニ新ニ電話所ヲ設置シタルトキハ其電話所ニ

電話線路ノ接續換ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ三箇月前ニ之ヲ加入者ニ通知スヘシ

第四條ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十八條 加入者電話機設置場所ヲ變更セントスルトキハ其電話所々屬ノ電話交換局ニ願出テ認可ヲ受クヘシ新ニ長距離通話ヲ爲サントスル加入者亦同シ

第十九條 明治三十年十二月遞信省令第三十一號電話交換規則第三條第三項第十條乃至第十二條第十四條第十六條第十九條第二十四條乃至第二十八條第三十一條第三十二條第三十五條第三十八條及第四十條乃至第四十三條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第二十條 本令ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其電話所所屬ノ電話交換局ヲ經由スヘシ

第四編 電信電話雜則

○電信局所ノ電報取扱時間及其ノ時間外電報取扱規則

明治三十六年十一月遞信省令第五十三號

第一條 電信局所ノ電報取扱時間ハ左ノ三種トス

第一種

午前六時ヨリ午後十時マテ

第二種

午前八時ヨリ午後八時マテ

特種

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ必要ニ依リ定ムルモノ

第二條 左ノ電報ハ電報取扱時間外ト雖モ之ヲ取扱フ但シ郵便電信取扱所電信取扱所及郵便電信受取所電信受取所ニ於テハ之ヲ取扱ハサルコトアルヘシ

一 至急電報

二 時間外電報

第三條 前條時間外電報トハ特ニ時間外ノ取扱ヲ要スル内國電報ヲ云フ

時間外電報ハ左ノ略符號ヲ以テ指定シ時間外取扱料ヲ納付スヘシ

一 時間外取扱ノ略符號 ララ SS

第四條 時間外取扱料ハ一通毎ニ金二十錢トス

第五條 同文電報ヲ時間外電報トナストキハ其ノ原信ニ時間外取扱ノ略符號ヲ併記

シ時間外取扱料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ金五錢トス

第六條 第一種局所ニ於テ時間内ニ受付ケタル電報ト雖モ著局所カ第二種以下ニ屬

シ既ニ其取扱時間ヲ經過シタルモノハ時間外電報トス

第七條 時間内ニ受付ケタル電報ト雖モ其ノ電報受信報知又ハ別使料電報報知カ時

間外ニ涉ルヘキトキハ時間外電報トス

第八條 電報取扱時間外ニ於テ電報ノ配達又ハ交付ヲ受ケムトスルトキハ之ヲ著信

局所ニ請求スルコトヲ得但シ時間外ノ取扱ヲナササル郵便電信取扱所、電信取扱

所及郵便電信受取所、電信受取所ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

○電信局所ノ電報取扱時間及其ノ時間外電報取扱規則

前項ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テハ時間外取扱料ヲ納付セシメ之ヲ配達交付ス

第九條 時間外取扱料ヲ納付シタル電報ニシテ時間外ノ取扱ヲ爲サ、リシトキハ之ニ對スル時間外取扱料ハ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

附 則

第十條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス明治三十四年八月遞信省令第三十四號時間ヲ定メテ通信取扱ヲ爲ス電信局所ノ電報取扱ニ關スル規則及明治三十六年三月遞信省令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續

明治三十三年九月遞信省令第四十七號

第一條 略號登記料又ハ配達先登記料ハ登記一箇毎ニ年額金十二圓トス
局渡料ハ證票一箇毎ニ年額金六圓トス

第二條 前條ノ料金ハ年額ヲ二分シ左ニ掲クル二期ノ別ニ從ヒ一期分毎ニ登記又ハ

交付ヲ受クル電信局所ニ前納スヘシ但シ一二等郵便電信局、電信局及在外電信局所ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ九月三十日マテ

第二期 十月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受ケ若ハ局渡證票ノ交付ヲ受クルトキト雖モ其ノ期ノ料金全額ヲ納付スルモノトス

第四條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ取消シ又ハ局渡證票ヲ返還スルトキト雖モ其ノ期ノ料金ハ之ヲ還付セス

第五條 電報規則第九十條第二項ニ依リ更ニ證票ヲ請求スルトキハ證票料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第六條 同一ノ略號ヲ内國電報及外國電報ニ通シ用ウル場合ト雖モ各別ニ其ノ料金ヲ納付スルニ及ハス

第七條 従前ノ規定ニ依リ此ノ規則施行ノ日以後ニ係ル略號常用料又ハ電報局渡料ヲ前納シタルモノハ引續キ其ノ略號ノ登記又ハ局渡證票ノ交付ヲ受クルモノト看做シ更ニ此ノ規則ニ依リ料金ヲ計算シ不足額ハ之ヲ追納セシメ過剩額ハ之ヲ還付

○略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續

○電信法中無線電信ニ準用ノ件

明治三十三年遞信省令第七十七號

電信法ハ第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用ス

○内地臺灣間私報ノ通常電報料

明治三十五年十月遞信省令第四十九號

内地臺灣間ニ發受スル私報ノ通常電報料左ノ通之ヲ定メ明治三十六年一月一日ヨリ施行ス

- 一 和文 片假名十五字以内 金四十錢
- 五字以内ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ増ス
- 二 歐文 五語以内 金五十錢
- 一語ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ増ス

○臺灣島内ニ於ケル電報別使配達料ノ件

明治三十三年九月遞信省令第六十三號

臺灣島内ニテ配達スヘキ電報ノ別使配達料ハ電報規則第六十七條ニ規定スル金額ノ五倍トス

○海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ臺灣

ニ施行スルノ件

明治三十五年四月勅令第四百十八號

海底電信線保護萬國聯合條約罰則ハ臺灣ニ之ヲ施行ス

○内地臺灣間新聞電報ノ件

明治三十三年五月遞信省令第十七號

長崎上海間海底電信線ヲ經テ本邦内地ト臺灣トノ間ニ新聞電報ヲ送受スルコトヲ得

○内地臺灣間新聞電報ノ件

前項ノ新聞電報ニハ明治三十年六月遞信省令第十八號ヲ準用ス但其一語毎ノ料金ハ金三十四錢トス

○本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電取扱規則

明治三十三年四月遞信省令第八號

編者曰ク該規則ハ發布ノ後三十三年遞信省令第五十九號三十四年同省令第二十二號ヲ以テ條中改正追加アリシニ因リ之ヲ訂正ス

第一條 對馬釜山間海底電信線ヲ經テ本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間ニ直發著スル電報ハ此規則ニ定ムルモノ、外萬國電信條約ニ據リ取扱フヘシ

第二條 和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以内毎ニ一語トス
字數ニ算入スヘキ文字ノ記載ナキ和文電報ハ一語トシテ料金ヲ科ス

第三條 軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ釜山京城及仁川間ニ限り他ノ官報ニ先ダテ傳送ス

第四條 左ニ掲グルモノハ内國電信ノ規定ヲ準用ス

- 一 和文電報ノ書法及字數計算
- 二 歐文電報ニシテ郵便受信報知及別使若ハ解船配達ヲ要スルモノ、略符號
- 三 局待又ハ親展トナシタル電報
- 四 同文電報料額
- 五 原信正寫手數料額
- 六 郵便ニ依リ又ハ電報受附函ニ差入レ若ハ電報配達人ニ依託スル電報ノ差出及受附

七 電報料及手數料ノ納付手續

八 電報受取證書手數料

九 在韓國本邦郵便電信局郵便局發本邦著電報ノ配達

十 傳送前電報返還ノ手數料

十一 和文電報ニ關シテ假納シタル尋問校正料ノ還付額

十二 電報料及手數料ノ還付ニ要スル物件

第五條 萬國電信條約第七條ニ據リ停止シタル電報ノ料金ハ之ヲ還付セス

○本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電取扱規則

第六條 電信受信報知ヲ要スル電報ハ歐文ハ五語分和文ハ二語分ノ料金ヲ増納スヘシ

郵便受信報知ヲ要スル電報ハ内國郵便稅率ニ據リ其郵便稅ヲ増納スヘシ

第七條 無手数料配達區外ニ住居スル發信人ニ於テ別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信報知ノ配達ヲ得ントスルトキハ賴信紙ノ端末ニ其旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八條 韓國ニ宛タル電報ニシテ著信局所在地ニ配達スルモノハ手数料ヲ要セス但解船配達ハ此限ニアラス

第九條 韓國無手数料配達區外ニ宛テタル電報ニシテ書留郵便又ハ別使ヲ以テ配達スヘキモノ及釜山港又ハ仁川港碇泊ノ艦船ニ宛テタル電報ニシテ書留郵便又ハ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ書留郵便、別使又ハ解船配達ノ略符號ヲ以テ之ヲ指定スヘシ其配達方ヲ指定セサルモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ之ヲ配達ス

第十條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ其配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ
第十一條 在韓國本邦郵便電信局郵便局ニ於テ別使ヲ以テ電報ヲ配達スルコトヲ得ヘキ地名其配達料及解船配達料ハ別ニ告示スル所ニ據ルヘシ

第十二條 前條ニ據リ別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ發信人ハ其配達料ヲ納ムヘシ

第十三條 國外ニ郵送スヘキ和文電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

○在韓國本邦郵便電信局郵便局相互間發著電報規定ノ件

明治三十三年四月遞信省令第九號

在韓國本邦郵便電信局郵便局相互ノ間ニ發著スル電報ニハ來五月一日ヨリ左記各號ノ規定ヲ除クノ外内國電信ノ規定ヲ準用ス

- 一 和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以内毎ニ一語トス
- 二 電報料ハ一語ニ付金十錢トス
- 三 軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ他ノ官報ニ先ダチ傳送ス
- 四 本邦郵便電信局又ハ電報ヲ取扱フ郵便局所在地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但解船配達ハ此限ニアラス

○在韓國本邦郵便電信局郵便局相互間發著電報規定ノ件

- 五 別使ヲ以テ電報ヲ配達スルコトヲ得ヘキ地名其配達料及解船配達料ハ別ニ告示スル所ニ據ルヘシ
- 六 別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ發信人ハ其配達料ヲ納ムヘシ
- 七 返信料前納電報ニシテ和文一語、歐文二語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルモノハ其略符號ノ次ニ返信ノ語數ヲ附記スヘシ
- 八 本邦ニ宛テタル和文電報ハ外國郵送電報トナスコトヲ得
- 九 和文電信受信報知料ハ一通毎ニ二語分ノ通常料金トス
編者曰ク該省令ハ發布ノ後三十三年遞信省令第六十號三十四年同省令第二十三號三十五年同省令第二號ヲ以テ改正及ヒ追加セラレシモノアルニ因リ之ヲ訂正セリ

○海外電報料金ニ關スル件

明治三十三年九月遞信省令第六十一號

海外電報ニ關シ追納ヲ要スル料金及ヒ三等郵便電信局電信取扱所郵便電信受取所若ハ電信受取所ニ差出ス海外電報ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十月遞信省令第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

編者曰ク該省令ハ卅四年遞信省令第四十三號ヲ以テ改正スル所アリシニ因リ之ヲ訂正シタリ

○海外電報ハ電信電話ヲ以テ發受スルヲ得ルノ件

明治三十三年九月遞信省令第六十二號

海外電報ハ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則第七十五條乃至第八十條ニ據リ電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ之ヲ發受スルコトヲ得
本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

○外國新聞電報規則

○海外電報料金ニ關スル件

明治三十年六月遞信省令第十八號

編者曰、該規則ハ三十六年遞信省令第五十二號ヲ以テ條中ノ改正アリ仍テ之ヲ修正ス

第一條 新聞社通信社又ハ新聞通信員ヨリ新聞社又ハ通信社ニ宛テ新聞紙ニ登載スル目的ヲ以テ本邦ト韓國及其ノ他ノ諸國トノ間若ハ韓國ト本邦以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ之ヲ新聞電報ト爲スコトヲ得

第二條 本邦發著新聞電報ノ本邦首尾料左ノ如シ

- 一 本邦ト韓國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
 - 二 本邦ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金六錢
 - 三 本邦ト前各號以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
- 韓國發著新聞電報ノ韓國首尾料左ノ如シ

- 一 韓國ト本邦トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
 - 二 韓國ト本邦以外ノ諸國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金二錢
- 韓國發著新聞電報ノ本邦中繼料左ノ如シ

- 一 韓國ト清國及其ノ他ノ諸國(歐羅巴ヲ除ク)トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付

金六錢

- 二 韓國ト歐羅巴トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢

新聞電報ヲ送受シ得ヘキ外國ノ地名及其料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 新聞電報ハ受信者必ス其ノ電報ノ事項ヲ新聞紙上ニ登載セサルヘカラス

第四條 新聞電報ハ左ノ場合ヲ除クノ外普通ノ英語ヲ以テ記載シタルモノニ限ル
但數字又ハ文字ヲ以テ示シタル商標若ハ商號ハ普通語ト見做ス

- 一 本邦ト清國上海トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載シ若ハ普通ノ獨逸語ヲ以テ記載スルコトヲ得

- 一 本邦ト清國北京天津及芝罘トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載スルコトヲ得

- 一 本邦ト韓國トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字若クハ片假名ヲ以テ記載スルコトヲ得ト雖モ羅馬文字ト片假名トヲ混用スルヲ得ス

第五條 新聞電報トシテ差出シタル電報ト雖モ當該郵便電信局電信局ニ於テ新聞電報ニ非スト認ムルトキハ之カ取扱ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第六條 新聞電報ハ至急返信料前納照校受信報知及同文電報トナシ又ハ傳送配達上

○外國新聞電報規則

特殊ノ指定ヲ附スルコトヲ得ス但本邦ト韓國トノ間ニ發著スルモノ若ハ上海厦門福州及香港ヨリ本邦ニ著スルモノハ之ヲ同文電報トナスコトヲ得

第七條 新聞電報ヲ差出サントスル者ハ豫メ其ノ受信者タル外國ノ新聞社名又ハ通信社名及其ノ所在地名ヲ其ノ電報ノ發送ヲ依托セントスル局ニ届出ヘシ

新聞電報ヲ受取ラントスル者ハ豫メ其ノ發信者タル外國ノ新聞社名又ハ通信社名及其ノ所在地名又ハ新聞通信員ノ氏名住所ヲ其ノ電報ノ配達ヲ受クヘキ局ニ届出ヘシ

第八條 新聞電報ヲ受ケタル者ハ其ノ電報事項ヲ登載シタル新聞紙ヲ其ノ電報ノ配達ヲ受ケタル郵便電信局電信局ニ差出スヘシ

第九條 新聞電報ニアラサル通信ヲ新聞電報トシテ差出シタルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ通常電報ニ訂正シ其語數ニ相當スル料金ノ不足額ヲ發信人ヨリ追徴ス又新聞電報ヲ受ケタルモノ正當ノ理由ナクシテ之ヲ次回發行ノ新聞紙ニ掲載セサルトキハ之ヲ通常電報ニ訂正シ其語數ニ相當スル料金ノ不足額ヲ受信人ヨリ追徴ス但其情狀ニ依リ六箇月以内ノ期限ヲ以テ新聞電報ノ取扱ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第十條 新聞電報ハ通信暢達ノ爲メ一般ノ電報傳送ニ妨ケアリト認ムルトキハ其取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 新聞電報ハ此ノ規則ニ定ムル事項ノ外總テ萬國電信條約及本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則ニ據リ取扱フモノトス

附 則

第十二條 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

編者曰ク該規則ハ發布ノ後三十年遞信省令第二十八號三十二年同省令第十五號同年同第四十一號三十三年同省令第七號三十四年同省令第七號三十五年同省令第三十八號等ヲ以テ條中改正セラレシモノアリ仍テ之ヲ修正ス

○外國新聞電報轉送規則

明治三十四年十二月遞信省令第五十四號

第一條 外國新聞電報ノ受信人ハ新ニ電報差出ノ手續ヲ要セスシテ更ニ國內ノ他ノ宛所ニ自己ノ受領スヘキモノト同一電報文ノ轉送ヲ一、二等郵便電信局、電信局又ハ其ノ支局ニ請求スルコトヲ得

前項ニ依リ轉送スル電報ハ轉送請求人ニ於テ更ニ電報ヲ差出シタルモノト看做ス

○外國新聞電報轉送規則

第二條 電報ノ轉送ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ左ノ事項ヲ記載シ常ニ自己ニ宛タル電報ノ配達ヲ爲ス一、二等郵便電信局、電信局又ハ其ノ支局ニ差出シ其ノ指定スル保證金ヲ豫納スルコトヲ要ス

- 一 轉送請求人ノ住所氏名
- 一 轉送電報ノ發信人ノ住所氏名
- 一 轉送スヘキ電報ノ發信地名其ノ他ノ特徴
- 一 轉送電報ニ附記シテ傳送セムトスル事項アルトキハ其ノ事項
- 一 轉送電報ヲ至急電報、照校電報又ハ同文電報ト爲サムトスルトキハ其ノ旨
- 一 電報受付時間外ノ著信電報ヲ至急電報トシテ轉送セムトスルトキハ其ノ旨
- 一 轉送電報ニ要スル一箇月間ノ見積料金額

第三條 原信電報ニ對スル改正電報ニ接シタル轉送局ハ直ニ其ノ旨ヲ受信人ニ通告シ同時ニ該改正電報ニ依リテ更ニ改正電報ヲ記載シテ之ヲ轉送スヘシ

第四條 轉送電報ハ内國電報トシテ電報料ヲ徵收スルノ外歐文電報ハ一通五十語以内毎ニ手数料金十五錢和文電報ハ一通二百字以内毎ニ手数料金十錢ヲ納付セシム轉送電報ヲ同文電報ト爲ストキハ原信ヲ除クノ外其ノ手数料ハ一通毎ニ歐文ハ金

十錢和文ハ金五錢トス

改正電報ノ轉送ニハ轉送手数料ヲ要セス

第五條 轉送電報ハ轉送局ニ於ケル轉送上ノ錯誤ニ基因セサルモノナルトキハ總テ其ノ料金ヲ徵收ス

第六條 轉送電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ轉送請求人ニ通告シ翌月二十日迄ニ通貨ヲ以テ之ヲ納付セシム但シ轉送廢止ノ場合ハ納付期日ヲ指定シ直ニ之ヲ通告スルモノトス

轉送請求人前項料金ノ納付ヲ了セサルトキハ電報ノ轉送ヲ停止シ且保證金ヲ以テ本條ノ料金ニ充テ尙不足アルトキハ之ヲ追徵ス

第七條 轉送ヲ爲ス郵便電信局、電信局又ハ其ノ支局ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ納付期限ヲ指定シテ轉送請求人ニ保證金ノ追納ヲ爲サシムルコトアルヘシ轉送請求人前項ノ期限内ニ保證金ノ追納ヲ爲サ、ルナキハ電報ノ轉送ヲ停止ス

第八條 前二條ノ場合ニ於テ電報ノ轉送ヲ停止シタルトキハ直ニ其旨ヲ轉送請求人ニ通告スヘシ

轉送請求人ニ於テ前項ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ保證金ノ填補又ハ追

納了シタルトキハ電報轉送ノ停止ヲ解除ス

轉送請求人ニ於テ前項ノ期限滿了後納付セサルトキハ轉送ノ請求ヲ廢止シタルモノト看做ス

第九條 轉送ヲ廢止セムトスルトキハ轉送ヲ請求シタル郵便電信局、電信局又ハ其ノ支局ニ書面ヲ以テ其ノ旨申出ツヘシ

第十條 本規則規定以外ノ事項ハ總テ一般ノ規程ニ依ル

○電話機ニ依リ電報ヲ發受スル心得

明治三十三年九月遞信省告示第三百四十號

電報規則施行ニ付同規則第七十五條及ヒ郵便電信局、電信局ニ連接スル電信電話ニ依リ電報ヲ發受スル心得左ノ通相定ム

- 一 電話加入者ニ於テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發送セムトスルトキハ其ノ地ノ電報取扱局ヲ呼出シ先ツ電報ヲ發スヘキ旨ヲ通シ而シテ後左ノ順序ニ依リ電報ヲ通話シ承諾ノ返辭ヲ受クヘシ
- 和文電報

一 電報ノ種類 官報私報ノ別

二 電報ノ字數 有料ナル居所氏名ノ字數ト本文ノ字數ヲ區別シ通話スヘシ例ヘハ受信人二名以上ナレハ最初ノ一名ヲ除キ第二名以下ノ字數又電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名ノ記載ヲ受ケムトスルモノナレハ其ノ居所氏名ノ字數ヲ通話シ次ニ本文ノ字數ヲ通話スルノ類

三 受信人ノ居所氏名

四 電報送達紙ノ外部ニ發信人居所氏名ノ記載ヲ要スルモノナレハ其ノ居所氏名

五 指定事項 至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ略符號ヲ用ユヘカラス

六 電報ノ本文

七 本文ノ末尾ニ記載セムトスル發信人ノ居所氏名

八 頼信紙ノ餘白ニ記載スヘキ發信人ノ居所氏名又ハ電話番號

九 電報ニ付注意ヲ乞フノ必要アルトキハ其ノ事項

歐文電報

一 電報ノ種類 官報私報ノ別

二 電報ノ語數 有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數ヲ通話スヘシ例ヘハ十五字以上ヲ聯記シタル語辭ハ一語ト雖モ二語ニ計算セサルモノナレハ有料語數ヲ二語トシ實際ノ語數ヲ一語トスルノ類

○電話機ニ依リ電報ヲ發受スル心得

- 三 指定事項 至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト
通常語ニテ通話シ略符號ヲ用ユヘカラス
- 四 電報送達紙ノ外部ニ發信人居所氏名ノ記載ヲ要スルモノナレハ其居所氏名
- 五 受信人ノ居所氏名
- 六 電報ノ本文
- 七 本文ノ末尾ニ記載セムトスル發信人ノ居所氏名
- 八 頼信紙ノ餘白ニ記載スヘキ發信人ノ居所氏名又ハ電話番號
- 九 電報ニ付注意ヲ乞フノ必要アルトキハ其ノ事項
- 二 電報取扱局ニ於テ電話機ニ依リ電話加入者へ電報ヲ送ルトキハ左ノ順序ニ依
ルヲ以テ順次之ヲ書取り受了ノ後承諾ノ旨ヲ返答スヘシ若シ電報ノ字(語)數
相違アルカ又ハ不明瞭ノ廉アルトキハ質問ヲ爲スヘシ
- 和文電報
- 一 受信人ノ居所氏名
- 二 電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名記載ノアルトキハ其居所氏名
- 三 電報ノ種類 官報私
報ノ別
- 四 發信局名

- 五 電報ノ番號
- 六 受附ノ月日及時分
- 七 電報ノ字數 最初ニ有料ナル居所氏名
ノ字數次ニ本文ノ字數
- 八 指定事項 至急、返信料前納、照校又ハ別使配達
等ト通話シ次ニ其ノ略符號ヲ通話ス
- 九 電報ノ本文
- 十 本文ノ末尾ニ發信人ノ居所氏名記載シアルトキハ其ノ居所氏名
- 十一 電報ニ關シ注意事項アルトキハ其ノ事項

歐文電報

- 一 受信人ノ居所氏名
- 二 電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其ノ居所氏名
- 三 電報ノ種類 官報私
報ノ別
- 四 發信局名
- 五 電報ノ番號
- 六 電報ノ語數 有料語數ト實際ノ語數ト差異アル
トキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數
- 七 受附ノ月日及時分

○ 電話機ニ依リ電報ヲ發受スル心得

八 指定事項 至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ其ノ次ニ略符號ヲ通話ス

九 電報ノ本文

十 發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其ノ居所氏名

十一 電報ニ關シ注意事項アルトキハ其ノ事項

三 電話機ニ依リ電報ヲ送受スルニ當リ暗號其ノ他通話上判明シ難キ語辭ハ左ノ番號表ニ依リテ辯明スヘシ殊ニ電報ノ文言ハ專ラ簡略ヲ主トスルカ故ニ普通文ニテモ發音ノ酷似セル(チトシ)(イトエ)又ハ(ato)(mtn)ノ如キハ往々混同シ易ケレハ是等ノ文言ハ番號表ニ依リ通話スル方判然スヘシ
和 文

片假名番號表

	横番號	縦番號
一	ア	一
二	イ	二
三	ウ	三
四	エ	四
五	オ	五
六	カ	サ
七	キ	シ
八	ク	ス
九	ケ	セ
十	コ	ソ

四	ダ	チ	ツ	テ	ト
五	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
六	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
七	マ	ミ	ム	メ	モ
八	ヤ		ユ		ヨ
九	ラ	リ	ル	レ	ロ
十	ワ	キ		エ	チ
十一	ン	濁點	半濁點	長音	
十二	句讀點	新章	括弧	小括弧	歸除線

假令ハチツト電話スルニハ四ノ二、三ノ二、十一ノ二ト呼ヒ(バ)ト電話スルニハ十二ノ三、六ノ一、十一ノ三、十二ノ三ト呼フノ類ニシテ濁點半濁點ハ總テ其附スヘキ片假名ノ次、括弧ハ之ヲ圍ミタル文字ノ前後ニ電話スルモノトス

○ 電話機ニ依リ電話ヲ發受スル心得

羅馬字番號表

		縱番號	橫番號
九	！感符	一	一
八	・終點	二	二
七	、讀	三	三
六	；小讀	四	四
五	：重點	五	五
四	？問標		
三			
二			
一			

十	“ ” 轉倒	一字下線	歸除線
---	--------	------	-----

假令ハ%ト電話スルニハ一ノ三、十ノ三、三ノ五ト呼ヒbyト電話スルニハ十
 ノ二、一ノ二、五ノ五、十ノ二ト呼フノ類ニシテ字下線ハ之ヲ施シタル語辭
 ノ前後ニ電話スルモノトス

四 郵便電信局、電信局ニ連接スル官廳用又ハ私設ノ電信線又ハ電信線ヲ以テ發
 受スル電報ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル規程ニ依リ送受スヘシ

五 電線ニ依リ電報ヲ發送スルトキハ豫メ文案ヲ作り字數又ハ語數ヲ計算シ置キ
 通信上少シモ支障無キ様準備スヘシ

六 電線託送電報發受者ヨリ發スル電報又ハ其ノ依頼ニ依リ發スル電報ニシテ料
 金ヲ豫納又ハ假納スヘキモノハ其ノ取扱局ヨリ確定シタル料金額ノ通知ヲ受ケ
 ルモノトス

七 電線託送電報發受者ヨリ電報ヲ發送スル場合ニ於テ自家ノ領收スヘキ返信料
 前納電報ノ返信用紙ヲ使用セムトスルトキハ先ツ其ノ旨並前ニ通知ヲ受ケタル
 返信料前納證書ノ番號ヲ通知シ次ニ電報ヲ送ルヘシ

○ 電話機ニ依リ電話ヲ發受スル心得

八 電線託送電報發受者ニ於テ受クヘキ電報カ返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ取扱局ヨリ證書發行ノ月日前納ノ金額及證書ノ番號ヲ通知セラルヘク又其電報ニ關シ發受者ノ追納スヘキ料金アルトキハ其ノ金額並事由ヲ通知セラルヘキモノトス而シテ其ノ返信料前納證書ハ前條ニ依リ使用シタルモノヲ除キ翌月十日迄ニ料金納付方ノ通知書ト共ニ交付セラルヘシ

○ 電信線電話線建設條例

明治二十三年八月法律第五十八號

第一條 遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線、電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ造營物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線、電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得其邸宅構内ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ前二項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第三條 遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線、電話線ノ建設又ハ通信ニ障礙アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得其建設通信ニ障礙アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限り之ヲ伐採シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條 遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス第六條 遞信省ニ於テ民有地ニ電信線、電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條 左ニ掲クル者ハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ

一 建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害

二 瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線、電話線ヲ移轉シタル

○ 電信電話線建設條例

費用

三 伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

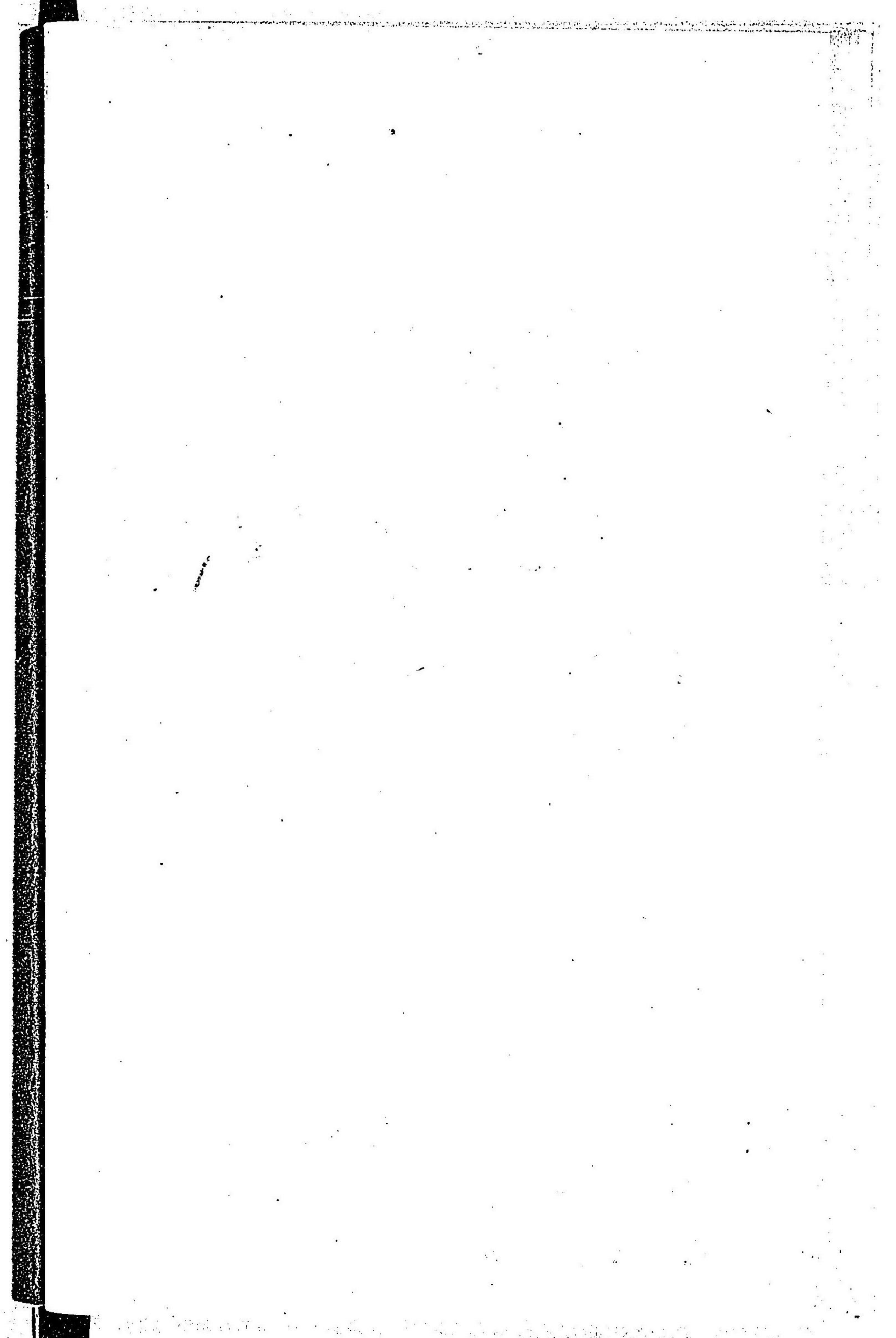
第八條 第七條ノ補償金額ハ双方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長
(未ダ市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戸長)ヲシテ之ヲ評定セシム
市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其ノ評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

郵便電信規則大全終

明治三十八年一月十三日印刷
明治三十八年一月二十日發行

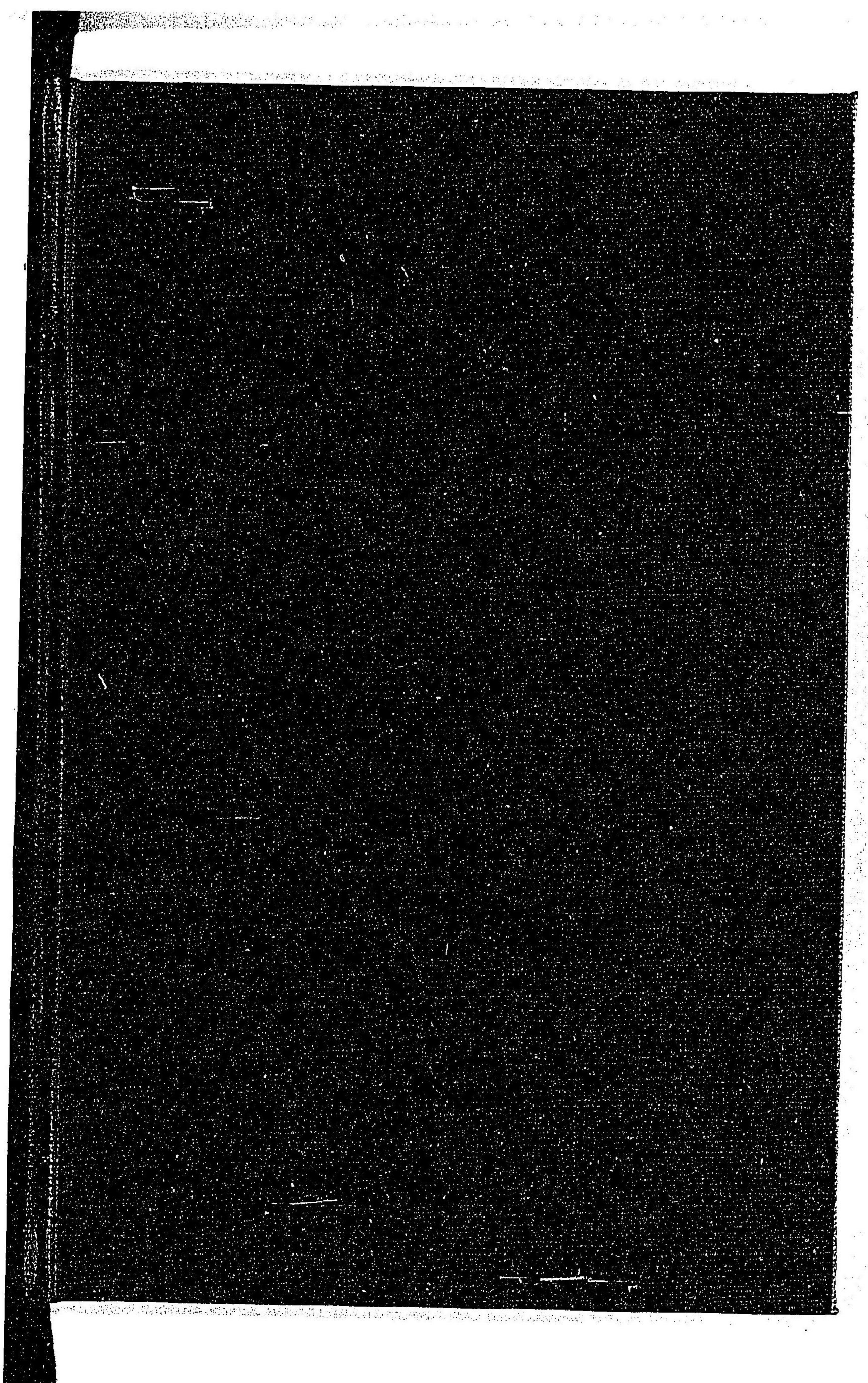
郵便規則大全	著作	所有	定價金五十錢
--------	----	----	--------

編輯發行者	青木恒三郎	東京市日本橋區通一丁目拾七番地
印刷所	嵩山堂印刷部	大阪市西區新町北通一丁目六十五番屋敷 電話西七八貳番
發行所	青木嵩山堂	大阪市東區心齋橋筋博勞町角
發行所	青木嵩山堂	東京市日本橋區通一丁目角 電話圖東貳五〇番
賣捌所	嵩山堂支店	伊勢四日市市堅町 電話圖本局七八九番



F#A 83





禁電子式複写

038078-000-7

CZ-491-06

現行郵便電信規則大全

嵩山堂

M38

BBY-0108

